

# 令和5年度 活動実績報告書



長岡崇徳大学

## 目 次

1) 教務委員会	1
2) 入試・広報委員会	5
3) 学生委員会	10
4) 学術委員会	15
5) FD委員会	16
6) 研究倫理委員会	18
7) 地域連携・貢献委員会	19
8) 大学連携委員会	21
9) 国際交流委員会	23
10) 実習委員会	24
11) 国家試験対策委員会	26
12) 高大連携委員会	28
13) シミュレーション教育委員会	29
14) アドバイザーⅢ期生	31
15) アドバイザーⅣ期生	31
16) アドバイザーⅤ期生	32
17) アドバイザーⅥ期生	32

令和5年度  
長岡崇徳大学 看護学部看護学科 教授会専門委員会活動 PDCAサイクルシート

※委員会名:順不同

看護学部・看護学科の目標						
令和5年度				令和6年度		
1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく				1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく		
年度当初記載		年度末記載				
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題
教務委員会	1 教育課程の円滑な運営を行う。	1 ①学年歴、時間割にそった教育課程の運営を行う。  ②定期試験、再・追試験を円滑に実施する。  ③入学前教育の見直し2024年度案を作成する。	i. 学年歴、時間割は概ね計画にそって実施した。 ii. 授業・演習 ・COVID-19感染者・厚接触者への対応として学内教員へメールで連絡し周知を図り、欠席対応を行った。 ・大雪に見舞われることなく12月末から2月の講義、実習を時間割どおり実施できた。 iii. 学生便覧作成 規定の変更に基づき学生便覧を作成し、業者に印刷を依頼した。学生便覧作成完了は3月下旬である。検討したカリキュラムマップをWeb掲載することで教育の質保証と可視化を図った。  ・1年生前期定期試験まえに受験に関連したオリエンテーションを行った。 ・試験期間については、昨年の課題をふまえて日程等を調整し、実施した。 ・前期はCOVID19陽性者・濃厚接触者の追再試の日程調整が必要であったが、後期では追試験は発生しなかった。 ・成績判定および公表は経過どおり実施できた。 ・定期試験監督者決定は従来どおりとするが、若手教員への負担軽減のために後期より教授も監督業務に従事する旨、教授会で説明し了解を得た。  2024年度入学前準備講座の見直しを行った。具体的には、開学以来依頼している株式会社ナガセと他業者の検討した結果、株式会社ナガセを継続することとし、講座内容の精選を図った。必修としている国語標準講座(本学負担)は、医療学生を対象とした「医療学生のための国語力入門」に変更した。また、任意講座の内容を見直すことで、受講料を引き下げることができた。 2023年12月末までに入学が決定した生徒に対して入学前教育を実施した。任意受講としている「医療系総合講座」「医療系生物入門」「ベーシック化学」「ベーシック数学」の受講促進を図るため、授業内容の説明を修正した。2024年度のプレイズメントテストは、入学生の学力判断として活用することを目的とし、全入学生を対象とすることとした。株式会社ナガセの契約等に関する書類授受において、業者からの連絡が滞ることがあり、催促した。	A   A   A	令和5年度学年歴、時間割  学生便覧  第〇回教授会  第3回委員会 資料2 第4回委員会 資料1	・学年歴、時間割、定期試験は概ね計画どおりに実施でき、それに関連した必要事項に関して専任教員および学生への周知を図られたこと「A」とした。  ・規定の変更に基づき学生便覧を作成し、3月下旬完成の予定通りに印刷依頼できたことから「A」とした。  ・入学前教育については、「入学前教育」の講座内容を精選し、価格を引き下げたことで、受講生がより取り組みやすいものとなった。プレイズメントテストの目的を変更し、対象者を入学生にしたことで、学生個々の学力を早期に把握することにつながると考える。評価は「A」とした。
						1 教育課程の円滑な運営を行う。  4 DP達成度ルーブリック作成&全学年達成度調査実施・評価を行う。  5 各領域担当者連携し高額教育機器備品/環境の整備を行う。  6 講師会議を開催する。  7 課程の規程等見直し
						1 ①学年歴、時間割にそった教育課程の運営を行う。 ②定期試験、再・追試験を円滑に実施する。 ③入学前教育の見直し2024年度案を作成する。 ④2025年度学年歴、時間割の確定は3月上旬とする。 ⑤2025年度シラバス、学生便覧作成  4 ①DP達成度ルーブリック作成する・ ②1・2月に全学年達成度調査実施し評価を行う。  5 各領域担当者連携し高額教育機器備品/環境の整備  6 講師会議開催 日程は検討中  7 規定等見直し

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

- |  |  |
|--|--|
| <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>                 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>                 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>                 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> | <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>                 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>                 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>                 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> |
|--|--|

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
教務委員会	2 学生への学習支援を行う。	④2024年度学年歴、時間割の確定は3月上旬とする。	i. シラバス作成 到達目標の表現の統一、評価基準の明確化などを目的として、授業評価基準・授業計画について見直し、シラバス作成ガイドラインとチェックリスト、シラバス作成依頼書を修正した。科目責任者にシラバス作成を依頼し、作成されたシラバスをチェックリストに基づき確認・修正依頼し、シラバスを編集した。 ii. 学年歴、時間割作成 外部講師の日程の要望および当該学年必修科目未履修の科目、学内教員の演習科目等の連続コマの希望等を考慮して作成。2023年度2月の教授会に案を提示した。その後、微修正し3月中旬に確定した。	A	2024年度授業時間割 2024年度シラバス作成ガイドライン シラバスチェックリスト シラバス記載例 シラバス作成依頼書	・2024年度学年歴、時間割の確定は3月上旬とする。 計画通りに時間割を作成したが、予定していた3月上旬には確定できなかった。しかし、講師都合による変更依頼等の遅れによるものであるため、評価は「A」とした。学生にとって効果的な授業となるよう、講義科目の連続性、前後の配慮、演習の連続コマの設定、必要科目によっては、2クラス制にしたことは評価できると考える。  ・シラバスとの整合性を図る必要もあり、科目担当教員の決定にも時間がかかるため、確定は3月下旬として計画を立てた方が時間的な無理がないのではないかと考える。	2 学生への学習支援を行う。	①入学時、前期・後期オリエンテーションおよび1年生に対する履修指導 ②学生の学習状況に諸事が発生した場合、アドバイザーと連携し支援を行う。
		①入学時、前期・後期オリエンテーションおよび1年生に対する履修指導 ②学生の学習状況に諸事が発生した場合、アドバイザーと連携し支援を行う。	・1年生に対し、前期の初め(履修登録前)に履修ガイドに沿って履修指導また2～4年生前期オリエンテーション、1～4年生後期オリエンテーションを行った。 ・アドバイザーおよび科目責者より授業出席状況、定期試験受験状況の情報に基づき必要時、教務委員長が面談を行った。	B	履修ガイド	・科目責任者、学生委員会あるいはアドバイザーより情報を得ることができた。必要時、教務委員長も面談を行ったが、履修、単位認定、学籍移動に係ることに限ってはアドバイザーの負担も大きく、教務委員会での関わりの検討が必要と考え「B」とした。		
		①試験監督業務 程(案)の検討を行う	「試験監督業務」の見直しを行い前期定期試験より運用した。	A	「試験監督業務」	各種規程の見直しおよび新規規程作成を行ったことから「A」とした。 ICT、AI関連について、昨今、生成AIの開発や利活用が急速に進展に伴い、AIの利活用は、利便性や生産性の向上などの利点がある一方、信頼性や誤用・悪用などの懸念やリスクも指摘されている。活用に当たっては、本学の方針を示し、留意点を学生に周知したことは評価できると考える。今後も、生成AIの動向を見極めながら、その都度取り扱いに関して検討していくことが必要である。		
		②定期試験疑義申し立て規程	・2022年度後期定期試験結果について、1名より専門基礎科目においてメールでの成績確認の申し出があり、科目責任者とのやり取りを経て、学生にフィードバックを行った。 ・「長岡崇徳大学 成績評価の確認及び成績に対する異議申し立てに関する規程」を策定し、それに準じた申請等様式1～4を作成し教授会で承認された。新規に関する学生への周知は、後期オリエンテーションの際に説明を行った。	A	「長岡崇徳大学 成績評価の確認及び成績に対する異議申し立てに関する規程」 様式1成績評価確認願 様式2成績評価確認願に対する回答書 様式3成績評価に対する異議申し立て書 様式4成績評価に対する異議申し立てに対する回答書			
		③大雪警報時のオンライン授業	2022年を踏襲する旨としたが、幸いにも発生しなかった。	A				
④特別講座	薬害に関する雨宮講師による特別講座は学びの機会となったが、教務委員会主催の講座の主旨、必要性が確認できないことから、次年度より実施しないこととした。	A						
⑤ICT関連	本学の生成AIへの対応について「学生周知文」作成し、ポータルサイトにおいて学生に周知した。	A	「教授会資料生成AI学生周知文」					

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
教務委員会		⑥新規:成績評価基準について	<p>本学の成績評価基準は学則第28条に基づき示されている、得点のみであり、その受け止めは教員個々によるところ多いといえます。しかし、令和7年施行大学機関別認証評価基準では、基準4教育課程において、「②ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準などの策定と周知、厳正な適用」があることから、それに相応した基準表現が求められている。そこで、成績評価が各科目の到達目標の達成度評価となるよう、評価基準を定め提案し承認された。</p> <p>今年度、人を対象とする研究については、学外施設管理者への研究依頼用紙および承諾書を作成し、それに伴って、倫理チェックシートを対応させ修正した。また、評価表の曖昧な評価基準を到達目標に対する達成度として変更し学生の自己評価、教員評価として用いた。</p> <p>①4年生</p> <p>i. 教員24名によって学生50名の研究指導を行った。</p> <p>・5月 研究計画書に基づき学生の研究フィールド調査の希望を各領域でとりまとめ、集計した。</p> <p>・6月中旬までに人を対象とする研究の調査数を各領域の教務委員が把握し、送付のための切手枚数を準備した。</p> <p>ii. 倫理審査について</p> <p>6月下旬をメットとして、人を対象とする研究については、指導教員を通して倫理チェックシート、研究計画書、学外施設管理者への研究依頼用紙および承諾書の提出を求めた。提出された資料は、教務委員の教授・准教授で審査を行い、承認を行った。</p> <p>iii. 10月24日(火)研究発表会オリエンテーション 11月17日(金)13:00~16:00 研究発表会 発表会プログラム、抄録集を作成した。参加者となる教員および出席確認がとれた学生に配布した。参加者は、次年度研究学生全員、次々年度研究学生5名であった。</p> <p>4会場を設営し、学生が主体となって発表会の運営を行い、各会場でフロアとの活発な質疑応答があった。終了後、運営に関する教員へのアンケートを行い、開催時間、学生の質疑応答に対する姿勢についてのご意見をいただいた。</p> <p>9月実施の学生満足度調査では、看護研究のサポートが対応する教師によって違いすぎるとの記載があった。どのような視点での違いなのかは不明であるが教務委員会で検討し回答した。</p> <p>iv. 評価表の評価基準の修正を行い運用した。</p> <p>評価基準が指導の程度によってS.A.B.C.D標記となっていたことから、達成目標の達成度に準じた評価基準の設定に修正し、本年度より運用した。また、ループリック評価表を作成し3月教務委員会で検討を行い、2024年度 4月教授会で承認を得た後、学生・教員に周知して運用する予定である。</p>	A	<p>11月大学運営会議、教授会資料「成績評価基準について」</p> <p>2024年度学生便覧</p> <p>第2回委員会 資料1</p> <p>2023年度看護課題研究要項 様式1・2、資料5</p> <p>2023年度看護課題研究発表会プログラム</p> <p>令和5年度看護課題研究抄録集</p> <p>看護課題研究発表会運営に関する意見</p> <p>2024年度版長岡崇徳大学看護課題研究要項</p> <p>看護課題研究希望調査について</p> <p>看護課題研究希望調査結果に基づく配置</p> <p>1月教授会資料⑦-1</p> <p>2月教授会資料⑦-1</p> <p>ループリック評価表</p>	<p>学生50名の看護課題研究を指導教員と協力し取り組み、全員の論文の完成および発表を行うことができた。授業として開講後に倫理チェックシート、研究協力依頼文、承諾書、評価表の変更を行ったが、大きな混乱なく研究を進めることができたため、「A」とした。</p> <p>次年度は授業評価として、学習到達度やパフォーマンスの質を評価できるような評価表に変更し、妥当性のある評価ができるよう準備していく。</p> <p>また、研究発表会は領域別実習中であることや、対象学生が増加することにより、時間の確保が課題となる。発表会の会場数を増やしプログラムの作成を行う。また、発表会の質疑応答に関して、学生によっては事前に質問者を用意するなどの操作が行われていた。発表内容に理解を深め、参加者間の議論を活発にするためにも、学生に指導していく必要がある。</p>	3 看護課題研究の実施・評価を行う。	<p>①4年生 6月上旬研究フィールド調整</p> <p>11月中旬 研究発表会企画・運営</p> <p>②3年生 1月頃オリエンテーション</p> <p>2月ゼミの希望調査</p> <p>3月学生配置決定し周知</p>



看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

- |   |   |
|---|---|
| <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> | <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> |
|---|---|

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
入試・広報委員会	1 規定に基づき、入学者の選抜、大学入学共通テストの実施、についてとどおりなく、実施できる	1) 区分に合わせた入学者の選抜を行うための日程、人員を確保、偏りが少なく配置する。  2) 長岡技大と連携し、大学入学共通テストに必要な要因を確保し、派遣する。  3) 外部の試験問題出題者・問題の確認者の確保と依頼  4) 入試問題内部点検基準の作成	予定表に基づき、最終の受験者数が確定したところで、事務局と委員長が密に連絡を取り合い、人別スケジュール表に記入し、入試要領とともに業務従事者に入試オリエンテーション前に配布した。教員の従事は教授が3～4回、准教授・講師が2～3回、助教・助手が1～3回と例年に比して少なかった。  今年度は共通テストの実施機関から両日共に3名ずつの従事者の依頼があり、6名の教員が対応した。課長から共通テストについての情報やオリエンテーションについて担当者に連絡しとどおりなく実施できた。急遽業務に従事できない者がでた時も従事者を確保することができた。  一般選抜試験Ⅰ期、Ⅱ期で出題する4教科について事務局が出題者・問題の確認者の確保と依頼は行った。今回、英語の2023年度一般Ⅰ期と2024年度一般Ⅰ期の問題が同一のものであったというアクシデントにつながるような事案が発生した。英語の受験者がいなかったこと、一般Ⅰ期の問題をホームページに公開するための手続き中に発見したことから、ミスとはならなかった。担当部署と委員長で経過を丁寧に分析した結果、出題時点で誤りが生じていたこと、その後のチェック体制の課題が浮き彫りとなった。今後については評価のところ述べる。  問題点検については入試・広報委員および依頼した点検者(秘密保持の署名済み)が各教科2名ずつで分担して点検項目にそった点検作業を行った。点検では、①誤字・脱字の確認、②問題番号と解答番号の整合性確認、③出題文の統一性などについて確認した。明らかな間違いがあり、指摘した結果、修正された。事務局から出題者に対し、修正が多い科目もあり、外部の問題出題者を探すのは容易ではなく、ようやく依頼していることから、出題者の負担を極力防ぎたいため配慮してほしい旨の意見があった。最小の修正を依頼した。	B	学生募集要項 各試験実施要領 入試委員会教員別業務担当計画表(委員長作成) 教授会資料 O. C実施要領 長岡技大実施要領 作成動画 募集要項 第1回入試・広報委員会資料)	【総括】2023年度入学者が定員の約50%となり、学生確保のために主として入試・広報委員長と副委員長、入試・広報課、事務局長、事務局次長で80プロジェクトを立ち上げ活動してきた。そのため、80プロジェクトの企画したものと入試・広報委員会の業務との重複が多く、整理しにくい状況となったため、本活動評価においては、当初の活動計画にしばって評価することとする。  目標1: 全体として、教職員一丸となって、入学者の選抜を概ねとどおりなく実施できた。しかし、文科省に報告するような状態を避けることはできなかったが、英語の2023年度一般Ⅰ期の問題と2024年度一般Ⅰ期の問題が問題の順序を一部入れ替えてあるものの同一問題であったことが判明した。経過の分析によれば、5点ほどに課題があることがわかったが、特にチェック体制において、外部出題者と内部点検者のやりとり、点検項目、点検のサインなどが明文化されていないことなどいくつかの問題があることがわかった。今年度は対策案を出したが、具体策は次年度委員会で立案し、実施することを確認した。	1. 2025年度入試の変更にかかるに規程等を修正し、公正な入試選抜を実施する 1) 募集要項の内容を確認し完成させる(6月中旬) 2) 志望理由書、プレゼンテーションの評価基準を作成し(7月)、10月からの運用に向けて準備を整える 3) 筆記試験、小論文の試験問題出題者への依頼と問題点検(8月～12月)、試験問題の印刷を行う(1～2月) 4) 入試スケジュールにそって選抜試験、合否判定会議、合否発表等を実施する(9月～3月) 5) 長岡技大との連携により大学入学共通テストを実施する(1月)	1. 2025年度入試の変更にかかるに規程等を修正し、公正な入試選抜を実施する 1) 募集要項の内容を確認し完成させる(6月中旬) 2) 志望理由書、プレゼンテーションの評価基準を作成し(7月)、10月からの運用に向けて準備を整える 3) 筆記試験、小論文の試験問題出題者への依頼と問題点検(8月～12月)、試験問題の印刷を行う(1～2月) 4) 入試スケジュールにそって選抜試験、合否判定会議、合否発表等を実施する(9月～3月) 5) 長岡技大との連携により大学入学共通テストを実施する(1月)

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
入試・広報委員会	2 2023年度の入試事業(2024年度入学生対応)が公明・正大に遂行できる	5)入試問題の印刷  1)2024年度の募集要項に示された内容をO、C等で告知する	一般選抜Ⅰ期およびⅡ期について、入試・広報課と入試委員長・委員が滞りなく実施した。  必要十分に告知できた。8、9、10、11月のOCにおいて、スライド資料を用いて学生募集要項に示された入試の説明を行った。アンケート結果では、各回とも参加者の80%以上が「よくわかった」と回答した。 令和6年3月13日大学入試センターから、令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストの利用教科・科目の記載方法について誤りが散見されるとの通知があり、本学入試要項を見直した。結果、誤りが認められたため、修正した。	A	第11回入試・広報委員会議事録  第1回・3回入試・広報委員会議事録 実施要領	目標2:入試事業においては、公明・正大に遂行できた。ただし、一般入試において平均点に20点以上の差がある場合の調整の仕方について、課題のあるケースがあったため、次年度に向けて整理しておく必要がある。		
	3 2023年度の入試委員会の課題をデータ分析等で整理し、2024年度の入試事業がよりよい状況で遂行できる	2)募集要項で示された内容を遵守して試験と選考を行う  1)本学の実情に合わせた入試改革を推進する  (1)研修等への参加  (2)入試区分と現在のGPAとの関連	適切に試験と選考を実施した。選抜区分ごとのデータを「選抜状況」として一覧表にまとめ、拡大入試委員会や合否判定会議の資料とした。拡大入試委員会では本学のアドミッションポリシーに則った学生を選考することで議論をつくして決定することを心掛けた。  委員が個人的にウェブセミナーを受講していたが、委員会全体での研修会参加はなかった  今年度は受験者・入学者の確保に集中し、データ収集・分析できなかった。	A	第10・11・13・16・17回入試委員会資料 教授会資料  ・第1回入試委員会資料 ・拡大入試委員会資料 ・実施要領 ・第2回入試委員会資料 ・教授会資料	目標3:今年度は入学生確保のための80プロジェクトの活動に重点が置かれたため、入試区分と現在のGPAとの関連の分析を行うことで推薦型入試での入学生がその後のGPAが比較的高く維持されていることがわかっており、重要な課題であるにもかかわらず、データ収集および分析ができなかった。2025年度入試に向けて総合型に併願を導入するにあたって、調査(動機・評定・欠席・活動や資格等)の入試への取り入れ方の検討を行うこととなった。また、面接や面接・プレゼンテーション評価表の検討も同時に行っていく。		

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
入試・広報委員会		(3)面接評価の考え方の検討  (4)調書、評定、欠席、活動や資格等の取扱い  (5)特待生の基準の見直し  (6)合格、不合格ラインの考え方と設定	2023年度と同様に行ったが、一般選抜においても3名の面接官が必要なのではないかとの意見もあった。  2025年度入試に向けて、学生確保は急務であり、高校生への指導要領の改正に伴い、総合型選抜に併願を加えることとなった。評価方法についての検討を開始した。  特待生の基準の見直しと法人への提案(教務委員会等との協同) 入学生確保の観点から特待生制度の変更(特待生を在校生に拡大する、Sを2名に、Aを6名に)を提案し、令和7年度選抜から実施する。  2024年度入試においても定員を確保できておらず、合格・不合格ラインを決定できずにいる  (7)専門学校等の要望があり、学士と保健師課程の修得を目的として3年次編入の募集要項を作成し、募集したが、応募は0人だった。		・第2回入試委員会資料 ・拡大入試委員会資料 ・実施要領  第2回入試委員会資料  ・第6回入試委員会議事録 ・添付資料  拡大入試委員会資料			

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

- |   |   |
|---|---|
| 1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br>2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br>3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br>4. 看護の専門性を高める教育を推進していく | 1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br>2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br>3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br>4. 看護の専門性を高める教育を推進していく |
|---|---|

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
入試・広報委員会	4 データ分析に基づき、ターゲット(高校生、保護者、高校教員、地域)と目的に応じた効果的な入試・広報活動を展開し、OC参加者を増やす。	2) 入学者選抜試験内容を振り返り、次年度の学生募集計画を年度内に立案する (1) 適正な入試回数、時期、入試区分の募集人数  ① OCの開催(年間8回)  ② 動画作成 4年生動画等(5月～)  ③ ホームページを活用した情報発信 在学生紹介ページ等の追加(通年)  ④ YouTube広告の積極的活用  ⑤ SNSの利用状況の確認と積極的活用	本学は入学定員に比べ試験回数が多く、教職員の負担も大きいため、2024年度は総合型Ⅱ期を廃止し、総合型入試は4回から3回に減らした。 しかし、2023年度入試の分析や他学等の試験日や合格発表日を考慮して、2024年度入試では入試回数は変わらないが、学校型推薦Ⅱ期の入試日の変更や願書受付期間の変更を行った。 指定校推薦校および人数の大幅な拡大を図った 2024年度入試結果、総合型選抜は募集人員20人のところ、志願者は12人と昨年より6名の減、学校推薦型選抜は募集人員35人に対し志願者21人と昨年より3人増ではあるが、定員を大きく下回った。一般選抜区分の受験者は18人昨年比13人減、大学入学共通テスト利用選抜31人昨年比8人減であった。  入試体験談や模擬授業、看護体験など企画を検討しながら、計画通り8回実施した。年間のべ参加者数は170名を超えたが例年並みの参加者数にとどまり、目標としていた参加者の増加数には至らなかった。しかし、日程的にOCに参加できなかった対象者向けに8月にイブニング個別相談会を実施し、出願・入学につながったケースが得られた。  在学生の動画2本・卒業生の動画を1本ずつ作成した。卒業生動画2024/02/28公開 531回再生、在学生に聞きました2023/11/22公開 521回再生、入学後の臨地実習2023/10/26/ 697回再生。  教員紹介のページを刷新し、教育活動や学生の活動などを随時NEWSの新着にアップした。ホームページの閲覧回数は全体的に大幅に増加した。  2023/10/19公開 180,306回再生、2024/02/14公開 44,190回再生  主にOC告知、OC終了後の情報発信、入試告知のためのX(旧Twitter)及びLINEを活用した。X(旧Twitter)では91回投稿を行い、表示回数5200回を超える投稿もあった。LINEは主にOC告知・入試告知ツールとして使用し、計28回投稿した。その他、LINEのチャット機能を使用した個別相談も実施した。また、Instagramを7月に開設し、大学の日常などを発信。計39回投稿を行い、フォロワー数も増えてきている。	B	・第12回入試委員会資料 ・令和3年度第12回入試委員会資料	目標4: 活動計画に沿って広報活動を展開したが、OC参加者は期待したほどの増加には至らなかった。広報の時期・媒体の問題より、大学の特長や印象の薄さが影響していることが考えられる。本学ならではの魅力や特長を明確に打ち出すとともに、他大学のOC日程の調査、参加回数や学年の相違を意識したプログラム内容・進行の見直し等を行い、OC参加者の増加を目指す。	2. データ分析に基づき、ターゲット(高校生、保護者、高校教員、地域)と目的に応じた効果的な入試・広報活動を展開し、OC参加者および出願者を増やす 1) OC(年間8回)、個別相談週間(8月・10月・12月)を開催する 2) エデュースのコンサルティング内容を活用した広報戦略を検討し、迅速に実施する(毎月) 3) ホームページの内容を定期的に更新する(通年随時)とともに、新規ページや動画作成を検討し実施する(7月) 4) SNS、Web広告を積極的に活用して大学認知を高める(通年随時) 5) ターゲットとする高校と説明内容を検討し、戦略的な高校訪問を展開する(5月～、年間3クール) 6) 大学進学ガイダンスへの参加回数を増やし、高校生に情報を発信する(通年随時) 7) 2026年度大学案内の作成を計画的に進め、4月に完成させる(写真撮影と記事内容の確認:12月まで、校正:1月～3月)	2. データ分析に基づき、ターゲット(高校生、保護者、高校教員、地域)と目的に応じた効果的な入試・広報活動を展開し、OC参加者および出願者を増やす 1) OC(年間8回)、個別相談週間(8月・10月・12月)を開催する 2) エデュースのコンサルティング内容を活用した広報戦略を検討し、迅速に実施する(毎月) 3) ホームページの内容を定期的に更新する(通年随時)とともに、新規ページや動画作成を検討し実施する(7月) 4) SNS、Web広告を積極的に活用して大学認知を高める(通年随時) 5) ターゲットとする高校と説明内容を検討し、戦略的な高校訪問を展開する(5月～、年間3クール) 6) 大学進学ガイダンスへの参加回数を増やし、高校生に情報を発信する(通年随時) 7) 2026年度大学案内の作成を計画的に進め、4月に完成させる(写真撮影と記事内容の確認:12月まで、校正:1月～3月)

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載		年度末記載				年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
入試・広報委員会	5. これまでの入学実績の分析に基づいた戦略的な高校訪問活動等を実施し、総合型選抜、学校推薦型選抜による出願者を増加させる。	⑥DM、高校ラックチラシ、FAX、テレビCM、バス放送等による広告(適宜)	OCの開催等のDM、バス広告等の当初計画の実施に加え、広報80プロジェクトを協働し、テレビCMの追加、新潟駅や長岡駅の看板の設置等を行い大学の認知度の向上を図った。	C		目標5: 入学者の出身高校分析に応じた高校訪問活動を実施していたが、出願者の増加には至らなかった。出身高校別のこれまでの入学者数だけでなく、本学がターゲットとする高校を絞り込み、高校との結びつきを強化する戦略的な活動を展開する必要がある。入試に関する高校訪問だけでなく、高大連携委員会とも協同した事業展開も検討していく。		
		⑦次年度大学案内作成作業(順次写真撮影、9月構成等の検討)	撮影の協力学生を募る難しさはあったが、予定通り撮影を進め、新たなデザイン校正のもと3月に校了した。(4月1日の納品完了予定)					
入試・広報委員会	6. 教育、研究、地域貢献に関する活動や成果を学内外に積極的に発信する。	⑧エデュースのデータ分析結果とコンサルティング内容を活用した広報戦略の検討(毎月)	月1回のペースで定例会議を実施し、資料請求、Web広告、OC参加者、出願状況等のデータを共有し、学生確保に向けた方策を検討した。教員プロフィールの作成、動画作成、HP学生インタビューの追加等の実務を依頼し、学生募集に向けて協働した。	B		目標6: 主にホームページを使ってタイムリーに発信することができた。今後は高校生により届きやすいSNSを活用した情報発信を促進していく必要がある。	3. 教育、研究、地域貢献に関する活動や成果を学内外に積極的に発信する	3. 教育、研究、地域貢献に関する活動や成果を学内外に積極的に発信する。 1) 教育実践、研究活動、地域貢献・地域連携の活動等について、ホームページ等を通じて積極的に発信する(通年随時)
		①入学者実績のレベルに応じた高校訪問(5月～、年間3クール)	教職員で分担・協力し、計画的に高校訪問を実施した。受験を前にした3回目の訪問では、事務職員を中心に入学実績の高い高校を優先的に訪問し、志願の増加に努めた。					
		②大学ガイダンス(通年随時)						
		③高校出前授業(随時)	本年度より活動主体が地域連携・貢献委員会に移された。					
		④指定校・公募推薦選抜入試の入学生から出身校への手紙(7月)	他の広報活動に時間が割かれ、実施には至らなかった。					
		①教育実践、研究活動、地域貢献・地域連携の活動等について、ホームページ等を通じて積極的に発信する	教員の教育研究活動の他、地域貢献活動の紹介を随時NEWSの新着にアップし、積極的に発信した。また、学生のサークルやボランティア活動などもあわせて発信した。全体を通してホームページの閲覧回数は大幅に増加した。					

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
学生委員会	<p>1. 保健衛生について</p> <p>1) 学生の健康管理を支援する。</p> <p>2) 予防接種が確実に実施できるように支援する。</p> <p>3) 健康管理に関する啓発活動を行う。</p> <p>4) 保健室利用者の対応を連携・協力して行う。</p>	<p>1. 保健衛生について</p> <p>1)-1 4月:健康診断を円滑に実施する。</p> <p>1)-2 5月:健康診断の結果を確認し、校医へ報告する。</p> <p>1)-3 6月～8月:要精検者への受診勧奨と受診結果の確認および指導をする。</p> <p>1)-4 5月:自己管理ファイルで自己管理の指導をする。</p> <p>2)-1 B型肝炎ワクチン、インフルエンザワクチン、新型コロナワクチンの予定の調整と把握を行う。</p> <p>2)-2 5月:予防接種に関する説明をする。</p> <p>2)-3 12月:予防接種の接種状況の確認をする。</p> <p>3)-1 保健だより発行と掲示を行う(3回/年 他必要時)。</p> <p>3)-2 感染対策の指導をする(随時)。</p> <p>3)-3 学生への感染対策について他の教員への協力を求める。</p> <p>4)-1 保健室担当教員と教務・学生課が連絡を密にし、連携する。</p> <p>4)-2 保健室の管理(毎月の点検、年2回のリネン交換、物品補充)を行う。</p> <p>4)-3 保健室の利用状況を把握する。</p>	<p>1)-1-2 健康診断</p> <p>4月6日に全学年対象に健康診断を実施し、特に問題なくスムーズに終了した。欠席者2名は後日各自で健診を受け、報告を提出した。学校医へ受診結果を報告した。</p> <p>1)-3 健康診断の要精検者への受診推奨を行った。</p> <p>1)-4 自己健康管理</p> <p>3・4年生は4月に全体へ自己管理について指導をし、1年生は6月、2年生は12月に健康ファイルのファイリング内容の確認、感染症カードの記入確認をした。</p> <p>2)-1-2 予防接種</p> <p>HBワクチンは1年生を対象に①6月1日、②7月13日、③1月11日の計3回実施した。インフルエンザワクチンは2年生を対象に10月31日、1年生・4年生を対象に11月2日に実施した。3年生は各自で受け、報告を確認した(各自で接種して大学へ報告するよう指導した)。</p> <p>新型コロナワクチンは今年度から各自で受けることになり、それぞれが報告とした。</p> <p>3)-1 保健だより</p> <p>保健だよりは3回発行し、ポータルサイトと学内に掲示した。</p> <p>①健康診断予防接種・熱中症、②食中毒・ストレスとこころ、③インフルエンザ。</p> <p>3)-2 感染対策の指導は随時実施</p> <p>3)-3 委員会以外の教員への協力は全体にはできなかった</p> <p>4)-1-3 保健室の利用</p> <p>保健室利用者は28名であった。かなり重症で対応が難しい人もいたが教職員で連携し、対応できた。</p> <p>保健室の利用状況は毎月会議で報告、一覧表にまとめて把握した。</p> <p>4)-2 保健室の管理</p> <p>物品の補充・点検は連絡を受けてすぐに補充できた。リネン交換は予定通り実施した。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年暦</li> <li>・健康診断結果</li> <li>・各健康ファイル</li> </ul>	<p>1) 健康診断・自己健康管理</p> <p>学内で全学年を一日のスケジュールで行ったがスムーズに実施できた。学生の健康診断結果は一覧リストを作成して把握し、学校医へ報告した。要精検者の受診状況を確認し、未受診者へは声かけをした。</p> <p>健康ファイルは1年生と2年生は実習前に確認と指導を実施し、3年と4年生はオリエンテーションの際に自己管理を促した。健康診断の実施と結果の管理を行い、学生への支援ができたため評価は「A」とした。</p> <p>2) 予防接種</p> <p>HBワクチンは1年生に予定通り実施した。インフルエンザワクチンは3年生が実習中のために個別接種を促して全員接種したことを確認したため評価は「A」とした。コロナワクチンは感染症5類に移行したことに伴い、各自での実施・報告となったので、全体の把握のために学生からの報告を徹底することが課題である。</p> <p>3) 保健だより</p> <p>保健だよりは3回/年発行し、熱中症、食中毒、インフルエンザなどタイムリーな情報発信ができたため評価は「A」とした。但し、感染対策の指導は授業等の際には窓の開閉を促していたが、学生が主体的に実施はできていなかった。特に冬にかけての感染対策の意識への啓発が十分に浸透できていないことが課題である。</p> <p>4) 保健室</p> <p>利用した学生の対応は教務・学生課や学生委員以外の教員にも協力を得て、大きなトラブルはなかったため評価は「A」とした。今後、教員が直ぐに対応できなかったり、重症な状況の場合の対応は難しく、保健室の管理、協力体制づくりについての検討が必要である。</p>	<p>1. 保健衛生について</p> <p>1) 学生の健康管理を支援する。</p> <p>2) 予防接種が確実に実施できるように支援する。</p> <p>3) 健康管理に関する啓発活動を行う。</p> <p>4) 保健室利用者の対応を連携・協力して行う。</p>	<p>1. 保健衛生について</p> <p>1) 学生の健康管理を支援する。</p> <p>2) 予防接種が確実に実施できるように支援する。</p> <p>3) 健康管理に関する啓発活動を行う。</p> <p>4) 保健室利用者の対応を連携・協力して行う。</p>

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
学生委員会	2. キャリア支援について 1) キャリア支援担当職員と連携し、学生への就職・進学に関する情報提供およびその支援を充実させる。	2. キャリア支援について 1)-1 キャリア支援スケジュールに沿ったガイダンスを実施する。 ・インターンシップガイダンス(6月) ・公務員試験対策(8月、3月) ・実習マナー講座(1月) ・小論文の書き方・エントリーシートの書き方講座など。 1)-2 就職・進学調査(3年次の8月、2月)を実施し、アドバイザーへ情報提供する。 1)-3 キャリア支援室での学生の個別相談、個別相談記録の作成を行い、必要時キャリア支援担当教員を介してゼミ担当と連携する。	1)-1-2-3 ・下記のセミナーを、マイナビ担当者を講師に招き開催した。 ①2022年6月20日(火): 就活スタートアップセミナー(インターンシップ・病院訪問・病院選び)(71名中37名参加)。 ②2024年1月29日(月): 就活セミナー①就職先選び、就職先研究(66名中43名参加)。 ③2024年2月29日(木): 就活セミナー②小論文、面接、履歴書の書き方(66名中46名参加)。 ④2023年1月17日(水): 実習マナー講座(2年生)(70名中60名の参加)。 ・2023年7月、2024年1月に3年生の進路調査を実施した。 ・上記セミナーおよび学外実施の合同就職説明会の学生への周知は、キャリア支援室担当職員と協力し、案内ポスター貼付やポータルサイトを活用して行った。 ・公務員試験対策に関しては、3月に保健師教育課程オリエンテーションと合わせて実施した(20名中19名)。 ・キャリア支援室での採用試験報告書の見直しを行い、キャリア支援室担当職員を中心に学生の個別相談を実施し、多くの4年生が利用した。	A	・各種アンケート結果  第1回2回進路調査結果、調査票	2. キャリア支援について 各種セミナーを実施し、実施後のアンケート結果も良好であった。今年度は実習マナー講座を基礎看護実習Ⅱオリエンテーションと同一日に企画したことで、参加率も高くタイムリな情報提供につながった。 就職活動に関してはキャリア支援室専属担当者の相談支援が充実し、多くの学生が利用し、面接指導、小論文指導、採用試験後のフォロー等において効果があった。就職情報の提供と支援活動が実施できたことから、評価は「A」とした。 今後の課題として次のことがあげられる。①3年生対象の就活セミナーに関しては、アンケート結果から時間が長いとの意見が多く、特に最後の就活セミナー②小論文、面接、履歴書の書き方では、2コマ実施の間の休憩時間に帰宅する学生が少なからず見受けられたため、セミナーの時間配分を業者と再検討する必要がある。②保健師就職希望者に対する公務員試験対策に関して、年度末に保健師教育課程の学生に実施したが、できれば低学年のうちから情報提供をしていくことが望ましいため、次年度の実施時期について検討が必要と考える。③今年度、就職(進学)内定届の学生への配布が遅くなったため、次年度は就職(進学)試験の結果報告に合わせて就職(進学)内定届を学生に記入してもらおうよう、キャリア支援室専属担当者で意志統一する。	2. キャリア支援について 1) キャリア支援担当職員および業者と連携し、学生への就職・進学に関する情報提供と支援を充実させる。	2. キャリア支援について 1)-1 キャリア支援スケジュールに沿ったガイダンスを実施する。 ・就活セミナー①～③(6月、1月、2月) ・公務員試験対策(8月) ・実習マナー講座(1月) 1)-2 就職・進学調査(3年次の8月、2月)を実施し、アドバイザーへ情報提供する。 1)-3 キャリア支援室での学生の個別相談、個別相談記録の作成を行い、必要時キャリア支援担当教員を介してゼミ担当と連携する。
	2) 4年生および卒業生の就職・進学状況に関する学生の動向がわかる資料の作成を行う。	2)-1 4年生の就職・進学状況に関する学生の動向がわかる資料を作成し、随時更新する。 2)-2 卒業生の就職・進学状況に関する学生の動向がわかる資料を作成する。	・4年生に関しては、50名全員の就職が内定したが、就職内定届を学生に渡すタイミングが遅れ、就職先内定届が回収できたのは2月になった。 ・卒業生の就職・進学状況に関する学生の動向がわかる資料に関しては、大学案内に掲載するのみとした。	A	・採用試験報告書 ・就職内定先リスト			
	3. 継灯式について 1) 学生の継灯式係と協働して継灯式を執り行うことができる。	3. 継灯式について 1)-1 昨年作成した「継灯式年間の流れ」を参考に進める。 1)-2 学生が主体性をもって取り組めるよう、学生の役割を明確に提示する。 1)-3 5/20(土)に3期生の継灯式を実施する。 1)-4 終了後に学生アンケートを実施する。	1) 学生の継灯式係と協働した継灯式 ・5/20(土)に3期生の継灯式を滞りなく挙行できた(69名中2名欠席)。 ・学生の主体性を尊重しながら学生継灯式係と連携することができた。 ・学生アンケート結果: 70%の学生が満足であり達成感と感動の意見があった。不満足な学生は12.5%であり、主な理由は会場の暑さや、代休がないこと、練習日が多いことであった。	A	・継灯式次第 ・継灯式当日役割スケジュール ・継灯式当日シナリオ ・学生アンケート集計結果 ・継灯式DVD ・受付名簿	3. 継灯式について 昨年度の課題であった、学生の希望を取り入れつつ大学の考えを伝え互いに意思統一をしていくこと、学生の主体性を引き出すための学生の役割の明確化において、教職員の役割分担と調整および学生継灯式係との連携により、学生の主体性を支持しながら継灯式を挙行できた。今年度初めてとなる保護者の出席の対応も教職員で協働することができた。また、学生数が多くなったことで生じる会場の課題に対しては業者との打ち合わせを重ねることで対応した。そのため評価は「A」とした。 次年度も、継灯式の目的を理解し、教職員の連携および学生継灯式係と協力しながら進めていくことが重要である。	3. 継灯式について 1) 学生の継灯式係(実行委員)と協働して継灯式を執り行うことができる。 2) 参列する保護者及び来賓の対応を滞りなく行う。	3. 継灯式について 1)-1 学生を後方支援するために、学生実行委員との連絡・相談の窓口となる。 1)-2 学生が主体的に参画できるよう、全学生の係と役割及び式のスケジュールを明確に提示する。 1)-3 継灯式の練習環境の整備と見守りを行う。 1)-4 5/18(土)に4期生の継灯式を実施する。 1)-5 終了後にGoogleフォームで学生アンケートを実施し評価する。 1)-6 学生が主体的に参画できるよう、4期生の継灯式実行委員から5期生継灯式実行委員への申し送りの場を設定する。 2)-1 学生委員会以外の教員の協力を得て実施できるように役割を調整する。

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

<p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する                  2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る                  3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする                  4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p>	<p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する                  2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る                  3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする                  4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p>
--	--

年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
学生委員会	<p>2) 今年度初めてとなる保護者参列、増加する来賓の対応を滞りなく行う。</p> <p>4. 学友会について</p> <p>1) 学友会活動を支援する。</p> <p>5. 保護者会について</p> <p>1) 保護者会を円滑に行う(昨年度と同等の満足度を維持する)。</p>	<p>2)-1 学生委員会以外の教員の協力を得て実施できるように役割を調整する。</p> <p>4. 学友会について</p> <p>1)-1 徳樹祭、サークル活動、球技大会などの学友会活動の企画・運営がスムーズに実施できるように側面から支援する。</p> <p>5. 保護者会について</p> <p>1)-1 10月21日(土)に保護者会を実施する。</p>	<p>2) 保護者参列、増加する来賓の対応                  ・コロナ5類移行に伴い1家族1名で参列の案内をし、44名の参加があった。                  ・実習施設等からの来賓は8名であり、新潟県看護協会会長:斎藤有子様と、長岡中央総合病院看護部長:横山様よりご祝辞を頂いた。</p> <p>1) 学友会活動                  ・4月14日(金)新入生向け学友会・サークル紹介                  ・4月28日(金)新入生歓迎会                  ・4月学友会役員選挙                  ・5月12日(金)学生総会                  ・10月29日(日)徳樹祭                  内容:屋台、キッチンカー、縁日、ビンゴ、地域向け企画                  教務委員会主催の特別講座                  212名来場者あり                  ・12月1日(金)球技大会(ドッチボール)                  24名が参加し、2チームでゲームを行った。                  ・サークルについては、3サークルの新設、5サークルの継続を承認した。</p> <p>・昨年度の課題をもとに学年別説明会を入れ込んだ役割やスケジュールを作成し、10月21日(土)に保護者会を行った。出席数は59名(1年生14名,2年生23名,3年生12名,4年生10名)であった。個別相談は14名(1年生3名,2年生6名,3年生5名,4年生0名)であった。保護者へのアンケートでは「満足した:65.3%」「やや満足した:26.9%」の合計は92.1%(昨年度94.9%)であった(N=52)。アンケートの自由記載では、「昨年の保護者会より改善された点がうかがわれ良かった」「コロナ禍で、校内の様子を知ることが出来なかった為、今後も大学と保護者との対話の機会を作っていただきたい」「環境や学生生活を知る良い機会でした」等の意見があった。                  ・アンケートに保護者からの交通や実習、国家試験対策等への要望が多く記載されており、教授会で報告し教職員に周知した。</p>	A	<p>・2023年度学友会役員名簿                  ・学友会決算・予算                  ・徳樹祭ポスター・タイムテーブル                  ・令和5年長岡崇徳大学球技大会企画書                  ・大学HP                  ・写真                  ・サークル一覧</p>	<p>4. 学友会について                  学友会選挙、総会等の運営・議事進行および徳樹祭、新入生歓迎会などの企画・運営について、事前に打ち合わせを行い、学生が主体的にかつ適切に活動できるように支援をしていった。今年度は計画していた行事がすべて実施できた。学友会活動に対し、学生が主体的に行動できるように事務職員や担当教員が側面というよりは正面から支援していった。そのため、評価は「A」とした。今後はさらに係同士の連携と学友会役員との連携および情報共有を密にして支援を継続していく。徳樹祭については今後も進行状況をみて適宜支援をする。そして、徳樹祭の係は1年生からも選出する</p>	<p>4. 学友会について                  1) 学友会活動を支援する。</p> <p>1)-1 徳樹祭、サークル活動、球技大会などの学友会活動の企画・運営がスムーズに実施できるように側面から支援する</p>	<p>5. 保護者会について                  1) 保護者会を円滑に行う(昨年度と同等の満足度を維持する)。</p>	<p>5. 保護者会について                  1)-1 10月12日(土)に保護者会を実施する。</p>

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画	
学生委員会	6. 新入生イベントについて	6. 新入生イベントについて		A		6. 新入生イベントについて アンケートの結果から、自己紹介では「できた・まあまあできた」が100%、スタンプラリーでは「廻れた・大体廻れた」が100%、また、楽しめたかの質問では、「楽しめた・まあまあ楽しめた」が100%であった。グループワークでは、「参加することができた・まあまあできた」が100%であった。以上より、学生の評価が高く目的は達成できたと判断し、評価は「A」とした。今後の課題として、スタンプラリーでは、各担当教員から学生に質問等なげかけてもらうよう依頼しておくことで学生も話ができたと感じることができているのではないかと感じる。	6. 新入生イベントについて 1) 新入生同士の交流を図り、お互いを知ることにより学生生活をスタートできる。	6. 新入生イベントについて 1)-1 入学後早期に新入生イベントを実施する。 1)-1 2025年度新入生イベントを計画する(2月の委員会までに完成する)。 1)-1 2025年度新入生イベントに関するアンケートを作成する(2月の委員会までに完成する)。	
	7. 学生生活(満足度調査・他)について	7. 学生生活(満足度調査・他)について		A	・学生満足度調査 アンケート調査内容 ・学生満足度調査 アンケート調査結果	7. 学生生活(満足度調査・他)について 全体の回収率は89.7%で、学生から得られた意見のうち改善できるものは、より学生生活が充実するよう大学として改善に取り組むことができたことから、評価は「A」とした。方法について、インターネット調査を導入するにあたり回収率低下と二重回答が懸念されていたが、回収率は微増、二重回答はなかったと考える。また、昨年度より回答入力にかかる時間が短縮できたことから、次年度もインターネット調査が良い。一方、全学年同じ 구글フォームに回答してもらったことから学年別の集計に時間を要し、最終的に学生への結果と対応の公表を年度中に行えなかった。次年度は、学年毎に別の 구글フォームに回答してもらう等、より効率化を図り、早く学生へ結果と対応を公表できるよう工夫する必要がある。	1) 学生生活の現状および課題を明確にして適宜対応し、学生生活をサポートする。	1)-1 学生生活満足度調査を実施する。 ・昨年度までの学生生活満足度調査結果と調査項目を検討し、精選した調査票を作成する。 ・満足度調査を1回/年(9月予定)実施する。 ・集計・分析を効率的に行うため、WEBでのアンケート方法を検討する。 ・学生生活の現状および課題を明確にする。 1)-2 新たな課題に対し、適宜対応する。	1)-1 学生生活満足度調査の実施 前年度と比較ができるよう前年度と同じ調査項目を使用し、全学年を対象に9月から10月にかけて学生生活満足度調査を実施した。今年度から集計と分析の効率化を目的に 구글フォームによるインターネット調査を導入した。全体の回収率は89.7%と昨年度の88.6%より微増した。 学生の満足度は73.7%で昨年度より9.6ポイント減少していた。学生からの要望で最も多かったのはインターネットの接続環境の悪さを指摘するものであった。これらの満足度調査の結果は、教授会を通して大学全体で共有し、改善を検討した。 1)-2 学生からの要望に対する回答 学生満足度・学生生活実態調査にて記載された学生からの要望については、教授会で共有すると共に、担当部署へ伝え回答を得た。その回答については、学生ポータルサイトを通じて学生へ2024年4月に1か月間公表予定である。
	8. 冬期交通安全講習会について	8. 冬期交通安全講習会について		A	作成ポスター ホームページ掲載文 ホームページ掲載写真 当日参加人数 講習会後アンケート結果	8. 冬期交通安全講習会について 開催日は降雪前の11月9日であった。雪道に慣れていない学生からは肯定的な意見があり、冬期通学の安全という目標達成のために効果的な時期であった。参加者のアンケートでは非常に参考になった/参考になったが100%であった。昨年の参加者の要望を講師へ事前に伝え映像を加え、車の運転の他に交通事故件数の実態や自転車に関する内容も盛り込まれた内容で非常に興味深いものであり、参加者への啓発はできた。以上のことより、今年度の計画である降雪前の開催、交通安全の注意喚起、達成できたため評価は「A」とした。 講習会の対象を1年生中心としたため、全体数が少ないこともあり、参加者数は20名(学生14名/44名+教職員6名)とやや少なめであった。今年度の学生の雪道での交通事故は報告ないが、講習会対象学年以外への啓発は次年度の課題である。	1) 学生が冬期の通学を安全に行えるように講習会を通して啓発する	8. 冬期交通安全講習会について 1)-1 冬季交通安全講習会を実施する(10~11月)。 1)-2 講習会の参加への促しをする。 1)-3 交通安全への注意喚起をする	1)-1 冬季交通安全講習会の実施 降雪前の11月9日(木)14:30~15:30に、主に雪道の運転が初めての1年生を対象に開催した。 アンケートを実施し、80%の回収率であった。 1)-1 -2 冬季交通安全講習会の参加 講習会前に参加の必要性を説明した。対象学年1年生14名と教職員6名が出席した。 1)-3 交通安全への注意喚起 講習会で配布された資料を掲示板に掲示し、参加できなかった学生へも配布をした。

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
学生委員会	9. 投書について 1)-1 学生からの投書に対し、適宜対応する。	9. 投書について 1)-1 学生からの投書については、できるだけ早く適切に対応する。	学生からの投書は3件あり、内訳は次のとおりである。投書箱(ポータルサイト)3件(公開:0件、非公開:3件)、意見箱0件。投書箱に「非公開」で投稿された投書については、回答および掲示はしていないが、投書の内容によっては対応した。	A		9. 投書について 投書箱に「非公開」で投稿された投書についても、投書の内容によっては対応したため、評価は「A」とした。今後も適宜対応をしていきたい。	9. ランチョンミーティングについて 1)-1 学生と教員とのコミュニケーションの場とする。 2) 学生から意見や不安や悩みを聞き、学生生活のサポートにつなげる。	9. ランチョンミーティングについて 1)-1 1年を通して定期的に開催する(3回/年、他必要時)。 1)-2 希望する学生が参加できるように調整する。
							10. 投書について 1) 学生からの投書に対し、適宜対応する。	10. 投書について 1)-1 学生からの投書については、できるだけ早く適切に対応する。





看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

- |  |  |
|--|--|
| <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>                 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>                 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>                 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> | <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>                 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>                 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>                 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> |
|--|--|

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
FD委員会	2 教職員が協働し、組織全体で学生の育成を図る。	2-1 SD研修「大学マネジメントにおける教職協働」講演会(仮)  2-2 SD研修「教育の質向上をさせる職員の職能開発」ワークショップ(仮)	2. SD研修会について 年間2回開催を計画し、下記2回の研修会を実施した。 ①「災害の怖さを正しく知る」講師：NHK新潟 狩野史長氏(防災士) ・参加者27名(当日参加24名、後日3名)回収率は100%。 ②「生成AIの基礎から活用まで」講師：新潟大学 熊野秀和氏 ・参加者33名(出席率62.2%) 回答数26名(回収率78.8%)であった(*録画視聴者は含めず)。 尚、1回目の災害に関する研修会は防災士による講演のほか、新たに本学に導入する安否確認システムの説明会も併せて実施された。	A	第4回FD委員会議事録  第7回FD委員会議事録	2 SD研修会について 年度当初の計画通り2回の研修会を実施することができたのでA評価とする。特に1回目の災害に関する研修の際に安否確認システムの説明を実施したが、1月の能登半島地震の際には早速システムの活用ができた。 2回目の生成AIについては、アンケート結果から研修内容の「理解」や「満足度」は90%以上と高く、不安として「倫理的な問題」や「教員のスキル不足」があった。看護教育の活用では「業務の効率化」や「学習支援への期待」が高かった。今後のSD研修希望では、大学マネジメントにおける教職協働、DX推進、コンプライアンス研修などが希望として挙がっていたので、次年度検討とする。	2. 教職員が協働し、組織全体で学生の育成を図る。	2-1 (事務局よりSD研修会計画)・合理的配慮について 2-2 (事務局よりSD研修会計画)・AIについて
	3 研究活動の推進と研究力の強化を図る	3-1 研究報告会	今年度から研究報告会を年1回まとめて時間を作って実施することとして3月11日に1時間30分の時間で実施した。この計画実施の初年あたり、科学学術研究費を取得した研究成果を有する教員3名に発表を依頼した。教員23名が参加し、実施に関するアンケートでは、全ての回答で「有意義だった」という結果が得られた。	A	会議議事録 発表次第 アンケート結果	3-1 今年度、研究報告会として研究成果を発表する企画を検討して実施した。学術研究のテーマの選出・研究手法・結果のまとめ方など教員としての重要な活動に関する知見を得たことは、各教員の今後の活動に生かすことができる企画となったと考える。次年度はこの企画の継続と実施内容に関する更なる検討を実施することが必要である。		

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

- |   |   |
|---|---|
| <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> | <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> |
|---|---|

年度当初記載		年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
研究倫理委員会	<p>1. 本大学教員の、人を対象として行われる研究に対して、諸倫理指針に沿った倫理的配慮を図る。</p> <p>2. 本大学教員の、人を対象として行われる研究の倫理に関する専門的知識・能力・研究方法の向上を図る。</p> <p>3. 本大学倫理審査委員会への申請時の提出書類ならびに審査用紙の様式、項目、書き方の改訂を行う。</p> <p>4. 本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」の作成に向けて準備する。</p> <p>5. 本大学学生に向けた研究倫理の啓発を行う。</p>	<p>1. 研究倫理審査会を実施する 1)開催回数:1年に11回、 2)本大学教員の、人を対象として行われる研究の倫理審査会を通して、研究倫理に関する専門的知識・能力・研究方法の向上を支援する。</p> <p>2. 研究倫理研修会を実施する。 1)倫理審査の申請には日本学術振興会主催の研究倫理eラーニング受講修了証明書の添付を必須とする。 2)年1回、講師を招聘し、医療看護に特化した人を対象として行われる研究の倫理に関する講習会を開催する。 3)委員会委員の研究倫理審査に関する専門知識の向上を図る。</p> <p>3. 倫理審査申請の手続き、審査用紙の様式、項目、書き方の改訂を行う。 1年に11回開催される倫理審査会において、委員と申請者から、倫理審査申請の手続き、および提出書類ならびに審査用紙の様式、項目、内容について意見を聞き、修正の必要を検討し、改訂を行う。</p> <p>4. 本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」作成の準備をする。 2023年は、2022年に引き続き本大学の「研究倫理綱領」および、「教員の研究活動の倫理的指針」の他大学の関係する資料を収集し、作成に着手する。</p> <p>1)学生向けの研究倫理に関するパンフレットを作成する。 2)作成したパンフレットに基づきの研究倫理に関する説明を行う。</p>	<p>1. 研究倫理委員会を実施した。 委員会開催回数は12回であった。本委員会12回の議題の第1は、研究倫理審査申請に対する審査であり、2023年度の審査総件数は17件、審査の種類は一般審査10件、迅速審査7件であった。審査結果は承認10件、条件付き承認5件、変更の勧告1件、不承認1件であった。第2として、委員会目標達成に向けた活動を進めるため、各委員に役割を設け、担当した。その実績は、次の2～5の通りである。</p> <p>2. 研究倫理研修会を実施した。 1)研修会の実施 ・開催日時:2024年1月25日(木)13時30分から15時00分 ・テーマおよび講師 テーマ:「研究推進に向けて ―生命・医学系指針令和5年改正のポイントとよくある質問―」 講師:高島響子先生 ・参加者:教員28人、職員3人、合計31人 2)研修会の評価: 研修後アンケート結果は24名からの回答(回収率77.3%)であり、参加者全員が、研修内容について「大変有意義だった」「有意義だった」の回答であった。</p> <p>3. 倫理審査申請の手続き、審査用紙の様式、項目、書き方の改訂を行った。 1)迅速審査および倫理審査申請書と研究計画書のフォーマットを改訂した。 2)変更箇所・修正履歴一覧表フォーマットを新規作成した。</p> <p>4. 本大学の人を対象とする生命科学・医学系研究倫理規程を作成した。 看護系大学、看護大学(単科大学)、総合大学等の「研究倫理指針」「研究倫理規定」「研究倫理基準」等を収集し、収集した大学の規定等を参考に、本学の研究倫理規定「長岡崇徳大学人を対象とする生命科学・医学系研究倫理規定」を作成した。</p> <p>1)学生向けの研究倫理に関する文書を作成し、リーフレット(配布用300枚)とポスター(掲示用10枚)を印刷した。 2)リーフレットは2024年度前期学生オリエンテーションで配布し、研究倫理に関する説明を行う。 3)ポータルとHPに掲載した。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>議事録</p> <p>・議事録 ・研修会計画書・企画書 ・研究倫理研修会アンケート</p> <p>研究倫理申請書【様式1】【様式2】 研究計画書【様式3】 変更箇所・修正履歴一覧</p> <p>・長岡崇徳大学における人を対象とする生命科学・医学系研究倫理規程</p> <p>・学生向け研究倫理啓発用リーフレット「長岡崇徳大学での健全な研究活動のために」</p>	<p>研究倫理審査の件数は総数17件と昨年の約2倍の件数であった。一般審査については、委員会開催日までにグループで審査し、会議で審議した。迅速審査については、その都度グループで審査した。審査結果については、適切に申請者へ伝えることができた。また、各委員に委員会目標達成のための役割を担ってもらった。その結果、2～5の通りの実績を得ることができた。そのため評価はAとした。次年度も今年度と同様に委員会を推進していきたい。</p> <p>2. 研究倫理研修会 研修への参加率は高かった。当日参加できなかった教員については録画視聴で対応したことも参加率の高さに繋がったと考えられる。アンケート結果では、参加者全員から研修内容が有意義であったという肯定的意見が得られた。そのため評価はAとした。次年度はRETOPセミナーの研修内容を勘案することも含め、研修内容を企画していく必要がある。</p> <p>3. 倫理審査申請の手続き、審査用紙の様式、項目、書き方の改訂 倫理審査申請の手続き、審査用紙の様式、項目、書き方の改訂によって審査申請者と研究倫理審査委員の双方にとって分かり易く、効率的に実施できるようになったため評価はAとした。</p> <p>4. 「長岡崇徳大学における人を対象とする生命科学・医学系研究倫理規程」の作成 開学時からの懸案であった本学の研究倫理規定が作成できたため評価はAとした。このことにより、本学の研究活動が、倫理的配慮のもと、研究対象者及びその関係者の尊厳及び人権を尊重し、科学的に適正な研究が実施されること目的として行われることが明確になった。一層の研究活動推進が期待できる。なお、本学独自の研究倫理行動規定がないため、次年度以降に検討していく必要がある</p> <p>5. 学生向けの研究倫理の啓発 新規に研究倫理を啓発する取組みができたため評価はAとした。今回は学生向けの発信であるが、今後は学生を含めた研究者向けとして統一した発信を検討する。</p>	<p>1. 本大学教員の、人を対象として行われる研究に対して、諸倫理指針に沿った倫理的配慮を図る。</p> <p>2. 本大学教員の、人を対象として行われる研究の倫理に関する専門的知識・能力・研究方法の向上を図る</p> <p>3. 本大学の「研究活動に関する研究者の行動指針」の作成について検討する。 1)他大学等の行動指針・行動規範について情報収集する。 2)本学の行動指針の作成の有無について検討する。</p> <p>4. 本大学の倫理審査委員会への倫理審査申請の電子化を図る。 1)倫理審査申請の電子化について整備する。 2)申請ファイルを用いた審査方法について整備する。</p> <p>5. 本大学学生に向けた研究倫理の啓発を行う。 1)学生向けの研究倫理に関するパンフレットに基づきの研究倫理に関する説明を行う。</p>	<p>1. 研究倫理審査会を実施する 1)開催回数:1年に11回、 2)本大学教員の、人を対象として行われる研究の倫理審査会を通して、研究倫理に関する専門的知識・能力・研究方法の向上を支援する。</p> <p>2. 研究倫理研修会を実施する。 1)教員には日本学術振興会主催の研究倫理eラーニングの受講を必須とする。 2)年1回、講師を招聘し、医療看護に特化した人を対象として行われる研究の倫理に関する研修会を開催する。 3)委員会委員の研究倫理審査に関する専門知識の向上を図る。</p> <p>3. 本大学の「研究活動に関する研究者の行動指針」の作成について検討する。 1)他大学等の行動指針・行動規範について情報収集する。 2)本学の行動指針の作成の有無について検討する。</p> <p>4. 本大学の研究倫理委員会への倫理審査申請の電子化を図る。 1)倫理審査申請の電子化について整備する。 2)申請ファイルを用いた審査方法について整備する。</p> <p>5. 学生向けの研究倫理の啓発を実施する。 1)学生向けの研究倫理に関するパンフレットに基づきの研究倫理に関する説明を行う。</p>

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

- |  |  |
|--|--|
| <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>                 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>                 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>                 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> | <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>                 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>                 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>                 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> |
|--|--|

年度当初記載		年度末記載				年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
地域連携・貢献委員会	<p>1. 地域の看護職をはじめとした専門職と連携を図る。</p> <p>2. 地域社会に本学がもつリソースを提供する。</p>	<p>1) 中越地域の看護研究支援                      (1) 研究講座の企画・実施 (2) 研究支援・共同研究の推進                      2) ニーズに対応した看護専門職講座の実施</p> <p>3) 教員のリソースを活かした市民公開講座の実施                      4) 教員のリソースを活かした出前授業の実施と推進                      5) 潜在看護職を対象としたリカレント教育の実施</p>	<p>1. 地域社会と連携・貢献する                      1) 中越地域の看護研究支援                      (1) 研究講座の企画・実施                      4.5.6月に6講座を実施した。参加者ののべ総数は128名であり、前年度とほぼ同数であった。                      ・アンケート結果から、概ね好評価を受けていた。                      (2) 研究支援・共同研究の推進                      ・A病院から4件、B病院から3件、送付された研究支援申込書により関連する領域の長に依頼した。前年度からの継続した研究指導があることや研究テーマとの関連で、支援教員の確保が難しく2件に対応できなかった。委員会で検討し、次年度は5件程度と限定し、募集期間は4/1～5/31としてHPに掲載する、採択方法は該当領域と担当教員の状況により決定することとした。</p> <p>2) ニーズに対応した看護専門職講座の実施                      前期は、本学教授による認知行動療法「7つのコラムを体験して、イヤな気分を楽にしましょう」を実施し、定員30名のところ29名が参加した。アンケートでは、「参考になった」が100%を占めた。様々な領域からの参加であり、時代に合ったテーマだったといえる。                      後期は、緩和ケア認定看護師を迎えて、「エンドオブライフケア～終末期にある患者・家族を支える緩和ケア～」について講演していただいた。25名の参加者があり、アンケートには、ほぼ全員が参考になったと回答した。グループワークで各施設の事情を共有でき安心につながったことや、具体的事例で理解度が深まったことが書かれていた。</p> <p>3) 教員のリソースを活かした市民公開講座の実施                      後期に3回実施した。1回目は「健康と睡眠」～脚がむずむずしませんか～、2回目は「睡眠前のリラクゼーションで、ぐっすり」、3回目は「aya世代のがんについて、そして予防できること」であった。アンケートに、それぞれ満足度の高い学びであったことが記されていたが、参加者数が少なかった。本学ホームページ、関係機関へのチラシの配布や市民向け広報紙などを活用したが、参加者数拡大には至らなかったため継続して検討していく。</p> <p>4) 教員のリソースを活かした出前授業の実施と推進                      小学校3件、中学校2件、小中校2件、高校13件を実施した。テーマは全領域に渡っていた。</p> <p>5) 潜在看護職を対象としたリカレント教育の実施                      外部から依頼がなかったため、活動はしなかった。次年度に目標に挙げるか見当が必要。</p>	B	議事録 アンケート結果	<p>看護研究講座、看護専門職講座については十分到達できたと評価する。しかし、看護研究支援について、ホームページに掲載しながら、十分に対応できなかったことからBとした。今年度に申し込みが集中したこと、昨年度から指導を継続している教員が複数名いることなどにより、支援教員の確保が困難になったことが原因と考えられた。次年度への継続課題とする。</p> <p>市民公開講座は、開学当初から申込者数が少ないことから、広報について検討を重ねてきた経緯がある。今年度も広報紙、ダイレクトメール、チラシの設置や直接配布など、できる限りの広報を実施したが、申込者数の増加にはいたらなかった。しかし、各教員のリソースを発揮した講義内容は深く参加者の満足度は3件とも高かった。出前授業は、小中高校と対象は幅広く依頼があり、内容も各専門領域の力を発揮したものであった。十分到達したものと評価する。</p>	<p>1. 地域の看護職に、本学がもつリソースを提供しつつ連携を図り、看護力の向上にむけた企画・実施ができる。</p>	<p>1. 地域社会と連携・貢献する                      1) 中越地域の看護研究支援                      (1) 研究講座の企画・実施                      (2) 研究支援の推進と支援に係る取り決めの作成                      2) ニーズに対応した看護専門職講座の実施                      3) 教員のリソースを活かした出前授業の実施と推進</p>

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

<p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する                  2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る                  3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする                  4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p>	<p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する                  2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る                  3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする                  4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p>
--	--

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
地域連携・貢献委員会	3. ボランティア連合会、地域社会と連携し、学生のボランティア活動の推進を図る	2. 学生の主体的なボランティア活動の支援・推進 1) ボランティアサークルと連携した活動の推進 2) ボランティア連合会と連携した活動の推進 3) 地域のボランティア募集機関との連携と学生参加の推進 4) 本学独自の学生のボランティア活動の推進と実践 5) 必要な手続きの推進(学生の学びの深化と活動把握のため)	2. 学生の主体的なボランティア活動の支援・推進 1) ボランティアサークルとの連携 サークルとは常に連携しており、特に長岡市配布の植花や環境整備等は、サークルのメンバーが実施した。 2) ボランティア連合会との連携 ボランティア連合会が主催する着付け教室ボランティアに大学の場所を提供し、参加者として学生が10名参加した。太陽の広場から依頼があり、2名参加した。 3) 地域のボランティア募集機関との連携 長岡市社会福祉協議会から3カ月ごとにボランティア募集の冊子「ともしあ」が送付されてくる。届け出がないため実態が見えなかったが、社協担当者からの情報で、数名参加があったとのこと。また、長岡市主催の二十歳のつどい、薬物乱用防止街頭キャンペーン、有志による「ながおか認知症の人と笑顔でい隊」、病院のメディカルハーブのガーデニング制作等、参加した。 4) 本学独自の学生ボランティア活動の推進 夏季期間の花の水やりを、教職員も加わって連携して実施した。冬期で実施してきたバス停近辺の雪かきは、降雪量が少ないため実施しなかった。 5) 必要な手続きの推進(学生の学びの深化と活動把握のため) 教務学生課への届け出をオリエンテーション等を通して促しているものの、植花22件、その他12件で合計34件であり、種類は5件であった。教務学生課に届け出が実態より少なく、継続課題である。	B	議事録	ボランティアサークルやボランティア連合会との連携はスムーズに実施できた。地域のボランティア募集機関との連携も年々増加してきており、学生もそれぞれ人数的には少ないものの参加している。しかし、教務学生課への届け出を促進させることが今年度の課題であったが、十分ではなかった。実施後に報告書をかくことで学びにつながるが、それが十分達成されなかったことは、今後の課題といえる。  【今後の課題】 1. 研究支援の対象の決定が円滑に進む 2. ボランティア活動時における教務学生課への届け出の徹底	2. 地域社会と連携しながら学生のボランティア活動を推進し、地域社会に貢献することができる。	2. 学生の主体的なボランティア活動の支援・推進 1) ボランティアサークルと連携した活動の推進 2) ボランティア連合会と連携した活動の推進 3) 地域のボランティア募集機関との連携と学生参加の推進 4) 必要な手続きの推進(学生の学びの深化と活動把握のため)

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

- |   |   |
|---|---|
| <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> | <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> |
|---|---|

年度当初記載		年度末記載				年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
大学連携委員会  R6年度より地域連携・貢献委員会と合併	1. NaDeC、まちなかキャンパス長岡、マッチングハブ、ながおか・若者・しごと機構、高等教育コンソーシアムにいがたタスクフォース部会(看護系タスクフォース)の活動に企画・参加し、長岡市や他大学との連携を深める。	1)まちなかキャンパス長岡に関する事業 (1)まちなかキャンパス長岡PRコーナー展示(令和5年9月～10月) (2)まちキャン通信 6月号掲載に向けて作成する (3)まちなかキャンパス運営協議会の分科会参加 ①広報分科会活動 ②R6年度「まちなか大学・大学院」、「まちなかカフェ」の企画および令和5年度の企画を実施する  2)NaDeCに関する事業に参加する (1)分科会・運営委員会への参加 ①コンソーシアム会議・運営委員会の出席 ②就職・インターンシップワーキングG ③産学協創ワーキングG ④授業連携ワーキングG(長岡学担当) ⑤起業ワーキングG (2)マッチング・ハブへの参加 担当者と共にできる範囲で参加する  3)米百俵プレイス・ミライエの利用の促進をはかる  4)看護系タスクフォースの当番校として参加	1)まちなかキャンパス長岡に関する事業 (1)まちなかキャンパス長岡PRコーナー展示(令和5年9月～10月) (2)まちキャン通信 6月号掲載に向けて作成する ・(1)(2)とも、広報分科会運営協議会の担当委員が中心となり、計画通り実施できた。(1)では、卒業生2名の看護研究発表会の取り組みを発表した。(2)では、卒業生1名の看護研究発表会の取り組み、在校生1名の社会貢献活動について掲載した。 (3)まちなかキャンパス運営協議会の分科会参加 ①広報分科会活動 まちキャン長岡広報分科会の計画通り参加した。 ②R6年度「まちなか大学・大学院」、「まちなかカフェ」の企画および令和5年度の企画を実施する ②については計画通り実施した。R6年度の企画では全体のプログラムを検討するとともに、本学教員がコーディネートする企画(「こころ、整えてみませんか」)が採用された。令和5年度の企画では、教員がコーディネートした「親が倒れた！その日は突然やってくる」の5回のうち、4回の講義を本学教員が担当した。  2)NaDeCに関する事業に参加する (1)分科会・運営委員会への参加 ①コンソーシアム会議・運営委員会の出席、②就職・インターンシップワーキングG、③産学協創ワーキングG、④授業連携ワーキングG(長岡学担当)、⑤起業ワーキングG ⑤の起業連携ワーキングGではポスターの送付があったが、ほとんどワーキンググループの会議は開催されなかった。 (2)マッチング・ハブへの参加 担当者と共にできる範囲で参加する 9月23日(土)、9月26日(火)に開催された第2回マッチング・ハブには、本学学部長が学術集会長をつとめるルーラルナーシングや領域別実習指導と重なり、参加できなかった。会議にはできる限り参加した。  3)米百俵プレイス・ミライエの利用の促進をはかる 長岡市から連絡のあった、利用希望に関して教職員と情報共有し、1講座を開催した。また、共有スペースの使用のための登録制についても周知し、個人で登録できるようにした。  4)看護系タスクフォースの当番校として参加 担当委員が当番校として、6月23日(金)第1回定例会議を実施した。 決定事項である月1回のニュースレター発行を遂行した。ニュースレターのフレームを提示した。	A	第1回委員会議事録資料 まちキャン通信6月号 まちキャン講座表 まちなかキャンパス長岡令和5年度講座一覧 NaDeC 運体委員会資料 NSN通信9月号～2月号 イヤーブック2022～2023 マッチングハブ資料	具体的活動計画について、積極的に参加し、ほぼ実施できたことからAと評価した。ただし、NaDeCの様々なワーキングはこの1年ほとんど開催されていないため、活動が見えず終了した。また、現在4大学1高専で力を入れているマッチング・ハブの活動には学会や実習指導の関係で参加できなかった。どのような活動ができるのか、検討が必要である。今年度は看護系タスクフォースの当番校や私学看護系大学とのプロジェクト活動、学生が主体的に活動する「アートなHENTAI万博！」など、連携や活動の内容が長岡市の4大学1高専に留まらない活動がある。大学との連携だけでなく、地域貢献という側面も大きくなってきていることから、地域貢献委員会との活動も共有していく必要がある。	3. NaDeC、まちなかキャンパス長岡、マッチングハブ、ながおか・若者・しごと機構、高等教育コンソーシアムにいがたタスクフォース部会、こめぶらの活動に企画・参加し、長岡市や他大学との連携を深めることができる。 4. 1. の活動を通して、学生が他大学学生と交流を図ることができる。	3.(目標3及び4)各事業の参加と連携 1) NaDeC に関する委員会への参加と他大学の学生間の交流 ・コンソーシアム・運営委員会、分科会(授業連携、起業、産学協創、就職・インターンシップ)に参加 ・事業を通じて、他大学学生と交流できるように支援する 2) まちなかキャンパス長岡に関する分科会・事業参加と推進 ・広報分科会、まちなか大学・大学院、まちなかカフェの参加と 学生交流の支援 3) マッチング・ハブへの参加 4) ながおか・若者・しごと機構の支援活動に参加 5) 高等教育コンソーシアムにいがたタスクフォース部会への参加 6) こめぶらの活動への参加

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載			年度当初記載		
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
大学連携委員会	2. 1. の活動を通して、学生が他大学学生と交流することができる。	1) まちキャン長岡やNaDeCの学生委員の活動を適宜確認し、支援する 2) 学生への広報活動につとめる	5) 日本私立看護系大学協会 地区活動プロジェクトモデル事業への参加 学部長が本学における発起人、事業全体(事業1を含む)の実行委員長および事業2の責任者、実行委員、事務局を大学連携委員が担当となり、企画・運営を行った。本学からの学生参加はAコース8人、Bコース2人が活発に交流した  1) まちキャン長岡やNaDeCの学生委員の活動を適宜確認し、支援する 2) 学生への広報活動につとめる まちキャン長岡やNaDeCの学生委員担当者と連携して活動していた。 本委員会としてのサポートはできなかった。また、学生からの相談もなかった。1年次生から相談があった「アートなHENTAI万博」への出展希望学生に対して、顧問となり、大学の賛同も得て出展でき、学生は血圧測定や赤ちゃん抱っこ体験を通して他大学学生や市民との交流ができた。	B	まちキャン長岡HP NaDeC HP 長岡崇徳大学HP 「アートなHENTAI万博」 実行委員会実績報告	目標1と同様、活動を通して連携をしてきた。しかし、本学のような小規模な大学で4大学1高専の方々と同じような活動を継続することには無理があるのではないかという意見もある。できる活動を長岡市や4大学1高専の方々にも理解をしていただき、地道な活動を展開する中で連携をしていきたい。ミライエ構想が具体化する中で、これまでのまちキャンやNaDeCの活動との関係性がわかりずらくなっていることもある。本学の規模と他大学の規模の違いから活動がしにくい課題もあり、できること・できないことを見定め連携していく必要がある。 ポータルサイトや掲示板、地域・公衆衛生学領域の教員などからの働きかけを行ったが、参加する学生数はまだ少数にとどまっている。今後も情報提供を行っていきたい。		
	3. 子育て支援事業を通して、地域に還元するとともに、子育て支援事業のあり方を考える	1) 子育て支援事業の3つの事業についてすすめていく ①講演会 ②パパママサークル 月1回程度 ③学生サポーター養成講座 3月 オンライン ④本事業のあり方を模索する	1) 子育て支援事業の3つの事業についてすすめていく ①講演会 実施できなかった。 ②パパママサークル 月1回程度 11回 参加者39組(78人) 学生サポーター 34人(卒業生含む) 教員 26人(延) 事務局 11人(延) 他施設からの見学があった。 ③学生サポーター養成講座 3月 オンライン 7月開催 3人、技術個別講座 7月 7人 ④本事業のあり方を模索する 2024年2月16日意見交換を行った。本事業をパパママサークルに限定するか、子育て支援は大きくとらえることもできるため、母性・精神・小児など幅広く取り組む方法もあるのではないか。という意見があった。	A	パパママサークル 参加者アンケート 学生感想 月ごとのファイル 学生サポーター養成講座フォルダ  第6回大学連携委員会 議事録	1年間大学連携委員会の中に位置づけられ、パパママサークルは地域のパパママに貢献できた。学生サポーター養成講座の時期を8月にしたことで、周知や再試験の日程との関係で受講者が少なかった。ただ、パパママサークルに必要な技術習得のための講座をズーム講座とは別に設けたことで、積極的に参加する学生がいた。これまで、子育て支援事業を立ち上げ、運営してきた教員の退職となるにあたって、今後の子育て支援事業に関する見通しはたっていない。 しかし、2024年4月から長岡市のパパママサークルは受講者の減少に伴い、長岡崇徳大学に長岡市の受け皿として依頼してきたパパママサークルは今後依頼しないことを表明している。子育て支援事業の意義を再検討し、本学の実情にあったものとしていく必要がある。		

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
国際交流委員会	<p>1. 在留する外国人との交流をとおして、学生が海外の医療・福祉の現状や文化について学ぶ機会をつくる</p> <p>2. 海外の大学との協定締結に向けて、候補となる国、大学等について具体的に検討する</p> <p>3. 海外研修や国際看護活動に関する情報について広報活動を行う</p>	<p>1-1.長岡技術科学大学の留学生との学生間交流の機会を設ける(10-11月)</p> <p>1-2.長岡市国際交流協会開催等の交流プログラムについて情報収集し、学生に紹介する。</p> <p>学生の国際的視野を広げる活動の一環として協定校となる国・地域・大学について調査し、具体的な候補を委員会内で検討する。</p> <p>3-1.学生に向けて国際交流や海外研修についての広報活動を行う。</p> <p>3-2.海外研修・留学に関連した奨学金情報の提供</p> <p>3-3.教職員のための海外研修促進と支援を行う</p>	<p>長岡技術科学大学留学生生活支援ボランティアグループむつみ会の代表小出 初江氏と面談し活動について伺った。本学の学生の協働参加を打診したが、否定的であった。長岡市国際交流協会・センターからは定期的に情報を提供してもらえ、小千谷市に避難しているSalif医師夫妻を紹介いただき、授業内交流が実現した。</p> <p>市国際交流協会を通じて、姉妹都市FortWorth市に学生研修の可能性について打診。10月にFW市担当者(Ms. D.McCowan)来日時に、本学内にて面談が実現。2025年3月研修について、大学・医療施設等の協力可能性を調査中。現在、関係施設とさらに交渉中である。9月研修の可能性も調整中。国際交流のためにHPの英語ページ作成について継続検討中。</p> <p>国内での国際交流活動については長岡市の国際交流情報を提供し、学生が参加した。海外研修については、2のFortWorth (TCU nursing school <a href="https://www.tcu.edu/academics/programs/nursing.php">https://www.tcu.edu/academics/programs/nursing.php</a>)との交渉の他、看護系学生向けの研修を提供しているATLA社の情報(ZOOMやYouTubeも含む)を掲示等で提供した。</p>	<p>C</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>長岡市国際交流センター主催「ほうかご国際文化部」第2~7回 その他単発行事2回</p> <p>学生海外看護研修(春・夏)旅行会社案内</p>	<p>課題:学生が主体的に活動に参画する・できる文化・環境の構築に向けた教育活動を行う</p> <p>課題:学生からの研修希望は多いので大学側の支援体制を早急に整える必要がある。</p> <p>課題:WEBでの国際交流・バーチャル留学の実施も検討課題である。教職員のために海外研修促進と支援については、未着手である</p>	<p>1.在留する外国人との交流をとおして、学生が海外の医療・福祉の現状や文化について学ぶ機会をつくる</p> <p>2.海外研修や大学間交流協定締結に向けた検討を行う</p> <p>3.学外提供の海外研修や国際看護活動に関する情報について広報活動を行う</p>	<p>交流支援: 国際交流や海外研修・留学並びに奨学金についての情報を提供する。 国際交流関係の会議、視察、学生活動帯同などを行う。</p> <p>交流促進: 学生の国際的視野を広げる活動として、国際的に活躍する団体/人による講演を企画する。協定校となる国・地域・大学について検討する。 FortWorthでの海外研修2025年3月予定</p> <p>海外情報発信用HP作成</p> <p>教員支援: 教職員のための海外研修促進と支援を行う。</p>

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載		年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
実習委員会	1. 各学年の実習が円滑に実施できる。	1) 実習物品の準備及び調整 2) 実習窓口担当を中心とした実習病院との連携 3) 全体及び領域別実習オリエンテーション、統合実習オリエンテーションの実施・調整 4) 実習指導教員必要人数の要望 5) 学生情報の臨地への情報提供の基準作り 6) 実習開始時期の1週間前倒しの検討 7) 出席時間や学習内容不足への対応に係る内規作成	1) 実習物品の準備及び調整 事前準備で不足部分を補充していたため、年間を通じて不足することはなかった。ただ、実習病院の指示によりN-95マスクを必要に応じて補充した。 2024年度新入生が着用する新たな実習着について、全学生を対象とした投票を実施し、決定した。 2) 実習窓口担当を中心とした実習病院との連携 実習前の打ち合わせ、次年度の日程調整等、実習窓口担当が連絡調整した。さらに、新型コロナウイルス感染症対応が5類になったことを受けて、担当施設の実習への対応について、迅速に情報収集し共有した。 3) 全体及び領域別実習オリエンテーション、統合実習オリエンテーションの実施・調整 オリエンテーションに向けた準備、及び実施は順調に行われた。欠席者への対応も、それぞれの領域担当が行った。 4) 実習指導教員必要人数の要望 成人看護実習Ⅰ・Ⅱについては、年度初めからハローワークに募集を出すなど対応を行ってきた。非常勤の実習補助者を配置することができ、不足部分は助手教員に依頼する等で対応した。 5) 学生情報の臨地への情報提供の基準作り 学内に障がい学生支援室が設立されたことから、情報提供の基準作りも支援室対応となった。 6) 実習開始時期の1週間前倒しの検討 前期試験の時期であり、前倒しのために日程調整ができないことから、前倒しはせずに従来通り行った。当該領域(母性)も了解事柄となった。 7) 出席時間や学習内容不足への対応に係る内規作成 内規を作成し、教授会で周知を図った。年度末に一部修正し教授会で報告した。	A	議事録	各項目をそれぞれの担当者が責任をもって対応できた。	1. 各学年の実習が円滑に実施できるよう準備する。	1) 実習物品の準備及び調整 2) 実習窓口担当を中心とした実習施設との連携 3) 全体及び領域別実習オリエンテーション、統合実習オリエンテーションの実施・調整 4) 実習指導教員の必要人数の確保 5) 学生情報の共有と必要に応じて教員及び臨地実習指導者への情報提供 6) 実習における感染対策の整備
	2. 新たな実習施設の開拓をする。	1) 領域が中心となり、新たな実習施設あるいは実習受け入れ人数の拡大に向けて調整をする。 2) 文科省の認可については事務局と連携して進める。	1) 領域が中心となり、新たな実習施設あるいは実習受け入れ人数の拡大に向けて調整をする。 2024年度に向けて立川メディカル病院にアプローチし、成人、母性、基礎領域の一部受け入れ、2025年度に向けて県中央済生会基幹病院で、成人、母性、小児、統合実習の一部受入が可能となった。2024年度統合実習は、学生数が15名ほど増えるため、訪問看護ステーションや従来の実習施設に受け入れ人数増加を依頼する等の働きかけを行った。 2) 文科省の認可については事務局と連携して進める。 文科省の届け出事項が発生すると、事務局と連携し対応した。	A		成人Ⅰ、母性、基礎、統合実践実習等の新たな実習施設を開拓できたためAとした。		
	3. 2024年度実習要項の作成および実習に向けた準備をする。	1) 実習要項の作成および製本 2) 実習病院との契約及び必要物品の確認	1) 実習要項の作成および製本 共通要項の内容変更が多かったため、委員会内で中身を検討し実施した。各領域、および統合実習の要項は、各担当者の責任の下で作成、製本できた。なお、2024年度より記録用紙はポートフォリオで掲示することとした。 2) 実習病院との契約及び必要物品の確認 実習前に、新型コロナウイルス感染症に関する各施設の基準を出してもらい、一覧表を作成した。契約事項や必要物品の確認を行った。	A		ワーキンググループ内で検討を重ね、共通要項、各領域の実習要項の作成、実習配置表の作成等をスムーズに実施することができた。	2. 2025年度実習要項の作成および実習に向けた準備をする。	1) 実習要項の作成および製本 2) 実習施設との契約及び必要物品の確認

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

<p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p>	<p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する 2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る 3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする 4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p>
---	---

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画

実習委員会	4. 実習施設との連携体制を整える	<p>1) 実習指導者会議の実施・学生指導に関する知見の共有化</p> <p>2) 実習窓口を中心とした役割に沿った実習調整</p> <p>3) 欠席傾向にある学生の臨地との情報共有と早期対応</p> <p>4) 教員の時間確保に向けた新たな連携の模索</p>	<p>1) 実習指導者会議の実施・学生指導に関する知見の共有化 昨年度3月に実施した「実習指導者会議」を、次年度から6月に研修会を盛り込んで実施することとし、今年度は3月に目的に見合う内容を語る講師(目黒悟氏)を招き、共に学べる学習会を実施することで学生指導に関する知見の共有化を図った。</p> <p>2) 実習窓口を中心とした役割に沿った実習調整 実習調整は円滑に行われた。さらに、新型コロナウイルス感染症への対応が5類になったことを受け、各実習施設の実習への対応について情報を集める、次年度の統合実践実習の人数調整等、連絡を取り合い調整した。</p> <p>3) 欠席傾向にある学生の臨地との情報共有と早期対応 領域別実習において、記録物や学習準備等が間に合わないことが原因で体調不良を呈した学生、精神疾患と付き合いながら出席日数を何とかクリアした学生がいた。臨地と情報共有するとともに、早い時期にアドバイザーを介して受診を勧める、話しを聴く等の対応を行った。</p> <p>4) 教員の時間確保に向けた新たな連携の模索 今年度当初に、教員の時間確保と学生がよりよい実習をするためにどうすればいいかを、各領域で検討してもらい共有した。そこには関係づくりの促進が多く述べられており、それを意識した新たな連携を考える必要があった。①大学授業への参加、②称号の付与、③臨地と大学との役割の明確化が抽出され、それに向けた準備を行った。まず、6月に崇徳会4病院の看護部長と大学(学長、学部長、各領域の長、実習委員長)の話し合いを実施し、④大学と臨地が共に学べる研修会の実施が追加された。①は次年度から実施のための準備をした。②は今年度は4病院を対象に実施し、次年度は全体に広げる予定である。③は、3月に実施する臨床指導者研修会や、共通要項の大学教員と実習指導者の役割分担表について、日本看護大学協議会看護学教育向上委員会の資料に沿って修正した。④は3月の臨床指導者研修会を経て2024年6月に同様の機会として同一の講師による継続的な学習と交流の機会を設けることとした。</p>	A		<p>臨地と教員が共に学ぶ実習指導者研修会の実施、各窓口教員のきめ細やかな施設との打ち合わせ、教員の時間確保に向けた新たな連携の模索等について、委員と領域教員、崇徳会関連病院との連携の元実施できたためAとした。</p>	3. 実習施設との連携体制を強化する。	<p>1) 実習指導者研修会及び会議の実施・学生指導に関する知見の共有化 2) 実習窓口担当者を中心とした役割に沿った実習調整 3) 欠席傾向にある学生について、実習施設との情報共有と早期対応 4) 実習指導者への称号付与 5) 教員の時間確保に向けた連携の模索 6) 実習指導者の学内授業見学実施</p>
<p><b>【実習委員会 今後の課題】</b>  <i>完成年度を過ぎ、5年目を迎え、新たな取組に挑んだ年であった。                  まずは、母性、成人Ⅰ、小児など、領域により不足している実習先の確保が求められた。                  さらに、教員の時間確保について、領域ごとに教員の意見の集約を図り、抽出を行った。結果は、本来の目的よりも関係づくりを行うことと、それが学生の学修のさらなる促進に結びつくものであったといえる。それを元に、崇徳会関連病院の看護部長と大学側との話し合いを実施し、①臨地実習指導者と大学教員の役割の明確化、②指導者と教員が一緒になった研修会の実施、③称号の付与、④大学授業への参加を実施していくこととした。また、臨床指導者会議は次年度から例年6月に実施予定とし、今年度は3月に研修会のみを行った。                  今年度はその地固めを行った。次年度への課題は、これを着実に進めていく事である。</i></p> <p>1. 新たな実習施設の開拓  <i>県央済生会基幹病院で、小児と母性、成人Ⅰ、統合実践実習を希望したが、小児については十分な回答が得られなかった。また、十日町という遠方に依頼するしかなかった母性についても、次年度から立川総合病院の実習が可能となるが、併設する専門学校との調整もあることから、継続的に十分な確保ができるかどうかは未知数である。新たな実習施設の開拓を目指す反面、実習教員不足もあることから、確保している実習施設内で枠を広げていくことも考えていく必要がある。</i></p> <p>2. 学生のさらなる学修促進を目指した実習施設との連携強化  <i>今年度3月に実施した、実習指導者研修会や研修会を盛り込んだ①実習指導者会議の実施や、②授業見学の促しと促進、③称号の付与などで、より一層連携が進む可能性が高い。さらに、関係づくりが十分でない、大学と臨地の役割分担もスムーズにいかないため、①②③はそれを意識して行う必要がある。一方、臨床指導者研修会の講師である目黒悟氏が語る通り、教員であっても大学教育について十分な学修をしているとは限らない。学生のさらなる学修支援のために、大学と臨地が対話を重視しながら、互いに学習し合い、役割を明確にして、一層の連携強化を図っていく必要がある。</i></p>								
	5. 感染対策を遵守した取り組みができる。	<p>1) 実習中の感染防止マニュアルの見直し</p> <p>2) 学内実習に向けた環境の整備</p> <p>3) 各領域の取り組みの共有化</p>	<p>1) 実習中の感染防止マニュアルの見直し 2023年5月に新型コロナウイルス感染症への対応が5類になったことから、各実習施設の実習に対する対応について情報収集し、それに沿って「実習中に感染症にかかったことが疑われる場合の対応」のフローシートを作成した(流行しているインフルエンザも同様の対応とした)。学生と教員全体に周知することでそれに沿って対応できた。</p> <p>2) 学内実習に向けた環境の整備 事前に実習室の確保と、各領域が臨地の協力を得ながら目的・目標に見合う学内実習を実施した。</p> <p>3) 各領域の取り組みの共有化 委員会内で、各領域の必要な情報の共有化はしているが、学内実習自体が前年度より減っているため、新たな試みなど発展的な共有化はしなかった。</p>	A		<p>各実習施設からの情報収集、それと本学感染対策委員会の規程に基づき、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザに対応するフロー図を作成した。また、実習前には学生家族にも感染対策について協力を求める文書を配布した。これらを学生と実習施設に配布し、特別な問題も発生することなく臨機応変に対応できた。</p>		

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

- |   |   |
|---|---|
| <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> | <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> |
|---|---|

年度当初記載		年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
国家試験対策委員会	<p>1) 各学年学習支援 4年生:看護師・保健師国家試験100%合格率を目指しゼミ担当教員と共に支援する。 3年生:国家試験の基礎知識に関し模擬試験を基に自己学習できるようアドバイザーと支援する。 2年生:解剖生理学・病理病態学に関し模擬試験を基に知識構築目指しアドバイザーと支援する。 1年生:国家試験受験への学習方法の確立を目指し、アドバイザーと支援する。 2) 学習環境の整備並びに大学への要請 大学図書館の土日開館の依頼・4年生の学習スペースの確保と整備</p>	<p>1. 4年生の年間計画(別紙)に沿って、①模擬試験、業者補講、教員補講を実施する。 2. 国家試験受験の必修問題を中心に模擬試験を実施し学習支援を実施する。</p>	<p>1. 4年生に計画していた看護師国家試験模擬試験7回及び、保健師国家試験模擬試験3回はすべて実施した。また、業者の補講並びに外部講師の補講も計画通り実施した。学内教員の補講は各領域で1~2回、保健師教育課程の教員による補講も複数回と多くの学習内容の提供を実施した。国家試験の結果は3月22日に発表となる。全員の合格となるのは自己採点を確認する限り、看護師国家試験、保健師国家試験共にやや難しいと考えられる。 2. 3年生:①計画に沿って業者模試、教員作成模試を実施した。「振り返りシート」を用いて強化する学習内容を書き出してもらい、復習した内容を添付して提出してもらった。②教員作成の「重要疾患ワークブック」を実習前に配布、実習終了後に解答集を渡した。③3月末に、さわ研究所「人体の構造と機能総まとめ」講座を計画している。 3. 予定通り模擬試験、長期休暇中の課題を実施した。1・2年生ともに模試を無断欠席する学生が数名おり、今後も繰り返し学習の意義を説明し自覚を持てるように促す必要がある。1年生では看字ドリル100問テストの結果が例年の学生と比較して低いことから、全員を対象に再試験を実施して学習の定着を促した。2年生では、成績低迷者を対象に個別での課題を提示し、基礎知識の確立を促した 4. 模擬試験終了後の成績をアドバイザー教員に伝え、アドバイザー教員と共に学生支援を行った。成績上昇が見られない学生には個別指導および少人数での学習支援を実施した。また、特に点数が伸び悩んでいる学生には業者のe-ラーニング(有料)を活用した学習を勧め、数人の学生が取り組んだ。</p>	A	議事録	<p>1. 看護師・保健師国家試験の可否は3月22日にならないとわからないが学習支援の方法としては全員対象の補講や成績が上昇しない学生への支援も万全を尽くすことができたことから評価は「A」とした。しかしながら、基礎学力の差が入学当初から見られ、最終的に国家試験までに学力が十分に整う状況であったかはかなり難しい状況である。入学者の選抜にもさらに工夫をすることが課題だと考えられる。また、国家試験の合格が難しいと予想される学生の模擬試験のデータを見ると、年度当初から成績が振るわない状況にあった学生が多いことから、今後の課題として気になる学生への個別支援を早期から開始する必要があると考える。なお、業者補講代金から学生自己負担金を算出する過程で計算ミスが生じ、予算額よりも決算額が上回ってしまった。次年度はダブルチェックを徹底する等の体制が必要と考える。 2. 3年生:①ほぼ全員が実施日に受験した。欠席者のうち返信のない者には、担当アドバイザー、委員長宛にも再度メールして受験を促した。振り返りシートの活用と模試の復習を実施している者といない者に大きく二分された。前期の模試後は、個別面談をアドバイザーに依頼していたが、後期は依頼することができず個別面談が不十分であったことから、次年度はアドバイザーに委員会から全面的に協力依頼を行い、個別の学習計画に繋げてもらうようにする。②実習中に確認できた学生は少数であり、学生に実施を任せていたため実習に活用できたとは言えない。全教員に周知して実習中に確認してもらう等の計画を加えれば効果に繋がったのではないかと考える。③これから予定されており、学生のアンケートから今後について再検討していく。 3. 1~2年生は、ドリル学習で基礎知識、学習方法の確立を目標にしてきたが、かなりの学生がドリルなどの提出物を出しており、少しずつ習慣化されてきた。また、1年生を対象とした看字ドリルの再試験ではほぼすべての学生の点数が上がったことから知識の定着につながったと考えられる。 4. 3年生は国家試験の必修問題への力を付けることを目標にしてきたが模擬試験の結果から学力はついてきている。</p>	<p>1) 各学年学習支援 4年生:看護師・保健師国家試験100%合格率を目指しゼミ担当教員と共に支援する。 3年生:国家試験の基礎知識に関し模擬試験を基に自己学習できるようアドバイザーと支援する。 2年生:解剖生理学・病理病態学に関し模擬試験を基に知識構築目指しアドバイザーと支援する。 1年生:国家試験受験への学習方法の確立を目指し、アドバイザーと支援する。 2) 学習環境の整備並びに大学への要請 4年生の学習スペースの確保と整備 2. 国家試験受験の必修問題を中心に模擬試験を実施し学習支援を実施する。 3. 1年生~2年生の解剖生理・病理病態学の学習取り組みの実践とその評価を実施して次年度への学習方法に繋げる。 4. 模擬試験の結果を公開し、ゼミ教員やアドバイザー教員が低学力者の把握を行い、国家試験対策委員と連携し適切な指導ができる</p>	<p>1. 4年生の年間計画(別紙)に沿って、①模擬試験、業者補講、教員補講を実施する。 2. 国家試験受験の必修問題を中心に模擬試験を実施し学習支援を実施する。 3. 1年生~2年生の解剖生理・病理病態学の学習取り組みの実践とその評価を実施して次年度への学習方法に繋げる。 4. 模擬試験の結果を公開し、ゼミ教員やアドバイザー教員が低学力者の把握を行い、国家試験対策委員と連携し適切な指導ができる</p>

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
国家試験対策委員会		5. 国家試験の環境整備: 図書館の土日開館の依頼、専用の教室、グループ学習のためのゼミ室の確保、国家試験対策専用掲示板設置、図書の実践	5. 図書館の土日解放を依頼し、土曜開館は単位取得試験期間に実施、日曜開館は1月27日～2月27日まで実施できた。4年生の学習スペースとして年間を通してB302教室で実施できた。また、成績上昇が見られない学生には12月末～1月末までA507を専用の学習スペースとして使用できるように調整した。	A		5. 学習スペースの確保に関しては1～4年生に対して科目試験や国家試験の学習環境としては十分整ってきている		5. 国家試験の環境整備: 専用の教室、大学図書館、グループ学習のためのゼミ室の確保、国家試験対策専用掲示板設置、図書の実践  6. 4年生の学生に看護師国家試験、必修問題集、一般+状況設定問題集レビューブックを学生に一括購入させる。 7. 3年生4年生の学習低迷者を早期に抽出し早期からの対策を実施する。 8. 学習低迷者に対しては、11月～2月の国家試験受験日まで必ず登校させて学習状況を確認と指導を行う。 9. 全教員を対象に国家試験セミナーを6月に実施する。 10. 既卒者の国家試験不合格者に対して、現状の確認と本年度の国歌試験受験有無確認を含めたフォローアップを実施する。

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

- |   |   |
|---|---|
| <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> | <p>1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する<br/>2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る<br/>3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする<br/>4. 看護の専門性を高める教育を推進していく</p> |
|---|---|

年度当初記載		年度末記載			年度当初記載			
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題		
高大連携委員会	高校と大学双方の教育課題やニーズを共有し、教育連携を強化する。	<p>1. 高校生対象の活動</p> <p>①「学びの看護体験」(7月下旬・1回実施) ・高校、HPを通じて実施を告知し、25名程度の高校生を募集</p> <p>②「高校生向け 公開講座」等の企画 ・長岡市近隣高校生対象:時期未定(高大連携推進会議で検討)</p> <p>③高校授業科目の授業担当 ・三条東高校医療専攻:時期未定 ・長岡大手高校家政科「生活産業基礎」90分:12月～2月予定</p> <p>2. 高校教員対象の活動</p> <p>市内4校に呼びかけた高校教員との高大連携推進会議を6月に実施した。計画段階では2回の会議実施を予定していたが、年度末の会議日程調整がつかず1回の実施にとどまったことから、評価はCとした。今後の高大連携推進会議のあり方や高校教員を対象とした研修会の企画については、次年度以降の学内の委員会組織再編を踏まえて、目的等を再検討する必要がある。</p> <p>3. 活動報告冊子の作成と配布(3月)</p>	<p>1. 高校生対象の活動</p> <p>①「学びの看護体験」 高校教員のヒアリング結果を踏まえ、実施回数を1回から2回に増やした。1回目は7月29日(土)に実施。3年生8名、2年生1名の計9名が参加した。事前の申し込みは15名であったが、感染症の罹患等の理由で直前のキャンセルが多くなった。2回目は9月30日(土)に実施。2年生1名、1年生3名の計4名が参加した(申し込みは5名)。2回とも午前はチーム医療についてのグループワーク、午後は感染予防に関する基礎看護技術演習と大学見学を実施した。</p> <p>②「高校生向け 公開講座」等の企画 高校教員からは、公開講座よりも「学びの看護体験」の実施希望が高かったことから、「学びの看護体験」の追加実施に振り替えた。</p> <p>③高校授業科目の授業担当 ・三条東高校2年生の学問探究授業 委員から1名が担当者として対応した。29名の高校生に対し、12月20日に探究テーマの検討、2月20日にグループワーク成果発表会に参加した。 ・長岡大手高校家政科1年生の「生活産業基礎」の授業 1月25日に37名の高校生に対し、医療専門職の仕事について学ぶ授業を実施した。本学の看護教員に加え、田宮病院と協働して作業療法士、管理栄養士、公認心理師に講師を依頼した。</p> <p>2. 高校教員対象の活動</p> <p>①高大連携推進会議の開催 6月2日(金)に市内4校の教員と会議を実施した。年度末の2回目の会議については、会議日程の調整の困難さと高校からの連携推進のニーズ状況を考慮して中止とした。</p> <p>②高校教員研修会の開催 高大連携推進会議では、高校教員を対象とした本学にて開催する研修会の企画よりも、各高校単位での研修会(メンタルヘルス、自殺予防等)の希望が聞かれた。本年度は高校からの依頼に対して講師を派遣することとし、全体での研修会開催は見送った。(高校単位での依頼は今年度なかった)</p> <p>3. 活動報告冊子の作成と配布(3月) 活動の紹介内容のねらいと冊子作成にかかる費用負担等を考慮し、活動報告に関しては、高校教員・高校生向けにはホームページによる活動紹介を随時行った。また、学内向けにはアンケートの集計による報告にとどめるとし、冊子の作成は中止した。</p>	A		<p>委員会の目標(高校と大学双方の教育課題やニーズを共有し、教育連携を強化する)としては、探究学習や授業に関して連携・協働する機会が増えてきたことから、一定の成果が得られたと考えられる。今後は、大学教員と高校教員とが双方向に学び合う研修や交流会等の企画を検討し、教育連携を進めていくことが課題であるとする。</p> <p>各項目の評価理由及び課題について以下に示す。</p> <p>1. 高校生対象の活動 高校教員のヒアリング結果を踏まえ、1回から2回に実施回数を増やし柔軟に対応することができた。また、大手高校の授業では、田宮病院と協働して授業を企画することで、リアリティの高い授業が展開できた。これらの点から、評価はAとした。「学びの看護体験」の参加人数が、企画よりも少なくなってしまうことに関しては、1回目は新型コロナウイルス感染症の流行が高まった時期であること、2回目は高校の定期考査の実施日との近さが原因にあると考えられる。開催日は大学行事の日程との兼ね合いもあり、他日程での開催が困難であったことから、開催日の設定については今後の検討課題である。参加人数自体は少なかったものの、オープンキャンパスの看護体験とは異なったねらいとして、大学で看護を学ぶ体験(カレッジインターンシップ)は大きな意義をもつものと考えられる。また、高校の授業運営の連携協働については、探究学習の授業に関連して高校側からのニーズが高まっていくものと思われることから、委員会活動にとどまらずに、大学全体として高大連携に関する取り組み意識が必要である</p>	<p>1. 看護職を検討している高校生を対象に大学で看護を学ぶ体験を提供し、進路選択の支援を行う</p> <p>2. 高校の探究学習等の企画・運営の支援を行い、高校との教育連携を促進する</p>	<p>1. 「学びの看護体験」の実施(8月・3月の2回実施) ・高校への通知、HP等を通じて実施を告知し、25名程度の高校生を募集 ・大学で看護を学ぶことを意識したプログラムを企画し実施する</p> <p>2. 高校授業科目の授業担当 ・長岡大手高校家政科「生活産業基礎」90分:12月～2月予定 ・長岡向陵高校「探求学習」:5/14打ち合わせ予定 ・加茂暁星高校「探究学習」:時期、内容は高校と調整予定 ・高田北城高校「探求学習」:時期、内容は高校と検討</p>
				C		<p>2. 高校教員対象の活動</p> <p>市内4校に呼びかけた高校教員との高大連携推進会議を6月に実施した。計画段階では2回の会議実施を予定していたが、年度末の会議日程調整がつかず1回の実施にとどまったことから、評価はCとした。今後の高大連携推進会議のあり方や高校教員を対象とした研修会の企画については、次年度以降の学内の委員会組織再編を踏まえて、目的等を再検討する必要がある。</p> <p>3. 活動報告冊子の作成と配布(3月) 活動報告冊子の作成には至らなかったが、ホームページ等を通じて活動の様子を発信することができたことから、評価はCとした。高大連携に関するものだけの活動報告だけでなく、今後は地域貢献・地域活動を含めた活動報告として検討すべきと考える。</p>		



看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
シミュレーション教育委員会		<p>4. 認知症VRの授業、演習等での活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護援助論Ⅱ：5月</li> <li>・認知症ケア論：10月</li> </ul> <p>5. シミュレーション教育力の向上・DX機器の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デブリーフィングに関する研修会の開催：時期未定</li> <li>・学内実践報告会の開催：3月</li> <li>・VRゴーグル、ふりかえ朗等の機器のメンテナンス：随時</li> <li>・デジタル、ICT技術の導入、活用のサポート：随時</li> </ul>	<p>4. 認知症VRの授業、演習等での活用</p> <p>3年次前期科目「老年看護援助論Ⅱ」において、「認知症高齢者のコミュニケーション」に関する講義の導入で、認知症VRを使用した。使用したコンテンツは、「ここはどこですか」という見当識障害を当事者の視点から体験する内容であった。学生のリフレクションシートには、見当識障害を持つ当事者がどの駅で降りるべきかわからない不安な心情や、勇気を出して声をかけたにもかかわらず、関心を示されない反応により、不安感がさらに増大したという率直な感想が記述されていた。その上で、支援者に求められる態度や声掛けを考えられていた。</p> <p>4年次後期科目「認知症ケア論」において、認知症のある人の当事者体験として、認知症VR体験を取り入れた。受講生8名が3つのコンテンツを視聴した。視聴後、感想と支援に関する意見交換をした。当事者の誰かに思いを聞いてほしいという基本的なニーズに気づき、支援に当たる前に、当事者の思いを丁寧に聴くことの重要性を考えられた。また、同期間で、新潟県内の認知症看護認定看護師と老人専門看護師の第1回合同会議を開催した。その際に、認知症看護のスキルアップを図るために、「認知症VR」体験を取り入れたリフレクション研修を実施した。</p> <p>5. シミュレーション教育力の向上・DX機器の活用促進</p> <p>デブリーフィングに特化した研修会は実施せず、シミュレーションを取り入れた各領域の教育実践例についての報告会を3月に実施した。21名の教員が参加し、参加者からは「各領域の取り組みが理解できた」「VRを適材適所で用いることで効果的な教育ができるということがわかった」等の感想が聞かれた。また、委員を通じて各領域内で教育DX機器の使用体験の機会を設け、活用の促進を図った。さらに、図書館にVRゴーグルを3台設置し、人体解剖教材(Holoeyes Edu)、看護シミュレーション教材(XTraining)の学生利用の促進を図った。VRゴーグルのアップデートや充電、ふりかえ朗の音声入力の不具合への対応等、適宜メンテナンスやサポートを行った</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生リフレクションシート</li> <li>・学生リフレクションシート</li> </ul>	<p>4. 認知症VRの授業、演習等での活用</p> <p>老年看護学関連の授業および演習において、認知症VRを取り入れた。VRの視聴を通じて、受講者は当事者の経験を疑似体験することが可能となり、これにより、「認知症看護」の基本である当事者の思いに寄り添う必要性が高まった。さらに、具体的なコミュニケーション方法についても理解を深めることができた。これらの点から、評価はAとした。学習効果が高いことが明らかであるため、今後も、学部授業等で活用してゆくこととする。</p> <p>5. シミュレーション教育力の向上・DX機器の活用促進</p> <p>デブリーフィングに関する研修会は実施に至らなかったが、各領域がシミュレーション教育の実践例を報告し、取り組みの具体や今後の課題について共有する研修会を開催することができた。また、VRゴーグルを図書館に設置し、学生の利用を促進した。機器のメンテナンスや利用サポートなどを行うことで、DX機器の活用促進に向けた環境づくりを行うことができた。以上の点から評価はBとした。シミュレーション教育に関しては県内看護系大学間との交流も重要であると考え、機器の使用に関しては、教員がアップデートや充電等のメンテナンスを臨地実習や授業と並行して実施するのは負担も大きく、使用環境を十分に維持するためにはメンテナンスを含めた体制づくりの検討が必要と思われる。</p>		

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
アドバイザー Ⅲ期生	1. 学生一人ひとりの個性を尊重する学修支援をする。 2. 学生が領域実習を円滑に実施できるように支援する。 3. 学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う	1. 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行う。  2. 科目担当者、教務委員会、学生委員会、実習委員会、国家試験対策委員会との連携をとり情報交換・情報の共有を行う。  3. 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。	1. 前期は4～5月に、後期は実習中は、必要な学生に面談し、実習終了後に3期生全員に声をかけ、希望者の面談を実施した。  2. 科目担当者や各委員会との情報共有を行い、臨機応変に対応した。 1) 前期の授業を乗り越えられず、臨地実習に向かえない学生、前期の単位は取得したものの、実習に向かうエネルギーがない学生が複数いた。アドバイザーが十分話を聴き、家族と面談し、教務学生課と連携して対応した。 2) 休学中に実習に関わる科目の授業参加を申し出る学生があり、科目担当者であるアドバイザー、教務委員、教務学生課と連絡を取り合い、学生の精神面、学習面の両面から例外的に認める判断をした。 3) 国試模試を連絡なしで休む学生があり、アドバイザー、国試対策委員と連携を取り対応した。 4) 複数領域で実習記録が書けない学生があり、学生、各科目担当者、アドバイザーが連携して対応し、身体面だけでなく心理面のクリニック受診へとつなげた。また、グループ内のメンバーをSNSを使って中傷するなどした学生があり、家族とアドバイザーが早急に話し合い対応した。また、実習委員会から学生ポータルサイトを使ってSNSの使い方について注意喚起した。  3. 学生生活に課題のある学生に対してタイムリーに対応した。 1) 学習状況の遅れのある学生について情報共有した。アドバイザーより、学生障がい支援室の利用を促した学生がいたものの、利用には至らなかった。 2) 複数の科目を再履修している学生の情報は、アドバイザー会議で共有した。	A  A  A	会議録   学生ポータルサイト  会議録		-	-
アドバイザー Ⅳ期生	1. 学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	1. 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行う。  2. 科目担当者、教務委員会、学生委員会、国家試験対策委員会との連携をとり情報交換・情報の共有を行う。  3. 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。	1. 前期は4月～5月にかけて、後期は10月に「面接用パーソナルシート」を用いて個別面接を行った。面接結果については、アドバイザー会議で情報共有した  2. 各科目担当者や各委員会と情報共有を行い、対応した。 1) 必修科目で再履修が必要な学生に対しては、アドバイザーが中心となって指導を行った。 2) 模擬試験等の結果(8月・3月実施)については、国家試験対策委員会共有のフォルダ内にある結果を利用し、適宜指導した  3. 退学者・休学者については、アドバイザーおよびアドバイザー長とともに、本人および家族と面談を行った。また、精神的不調を訴える学生がいた。そういう学生に対しては、アドバイザーおよびアドバイザー長と相談し、本人・家族の希望があれば早めに医療機関につなげた。	A  A  A	・会議録 ・「学生記録票」 ・「面接用パーソナルシート」   ・会議録	1. 新年度および前期の成績が出た後に個別面談を実施することができ、学生の学習や生活についてタイムリーに状況を把握し相談にのることができた。来年度も同じような時期に個別面談を実施したい。  2. 各科目担当者などと連携を図ることができた。来年度もことある毎に各科目担当者や教務委員会などと連携をし、適切に個別面談を実施したい。  3. 退学者・休学者、精神的不調を訴える学生に対しては、アドバイザーが中心となって面談を行うとともに、適宜アドバイザー長に報告、アドバイザー会議でも情報共有した。学籍異動や学生生活に課題のある学生に対しては、来年度もアドバイザーを中心に適宜適切な対応がとれるようにしたい。	1. 学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	1. 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行い、アドバイザー会議で情報共有する。 2. 学業に課題のある学生については、科目担当者、教務委員会、国家試験対策委員会などと連携をとり、学業に関する情報交換・情報の共有を行う。 3. 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。

看護学部・看護学科の目標

令和5年度

令和6年度

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

1. 学生の主体性と自律性を育む教育を展開する
2. 教職員の協働力を高め、委員会活動の活発化と効率化を図る
3. 研究活動を促進させ、外部資金獲得へ向けた取り組みをする
4. 看護の専門性を高める教育を推進していく

年度当初記載			年度末記載				年度当初記載	
委員会名	委員会目標	年間計画	実績等	評価	根拠資料一覧	評価の理由と課題	委員会目標	年間計画
アドバイザー V期生							1. 学生一人ひとりの学業や進路、課外活動等の学生生活を送る上で生じる問題について相談、助言を行う。	1. 学生の学習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行い、アドバイザー会議で情報共有する。 2. 科目担当者、教務委員会、国家試験対策委員会などと連携をとり、学業に関する情報交換・情報の共有を行う。 3. 学生生活に課題のある学生に対し、タイムリーで適切な対応を行う。
アドバイザーVI期生							1. 学生が本学に入学した目標が達成できるように、一人ひとりの学業や課外活動等の学生生活で生じる諸問題について相談、助言を行う。	1. 学生の学業修習状況、生活全般について把握するために定期的な個人面接を行い、アドバイザー会議で情報を共有し協同して支援していく。 2. 学業に課題のある学生については、科目担当者、教務委員会、国家試験対策委員会と情報共有し、連携して指導・支援していく。 3. 学生生活に問題が生じた場合は、タイムリーな対応を行う